公共施設マネジメントシンポジウム

・開会及び閉会

日時：令和7年4月6日（日） 午前10時00分 開会

午後 1時15分 閉会

開催場所：かぐや姫ホール

・出席者の職名及び氏名

町長 山村 吉由、教育長 植村 佳央

（町長部局）

企画総務部長 藤井 勝寛、総合政策課長 芝 賢明

（教育委員会）

教育振興部長 倉田 洋子

（司会）失礼いたします。

定刻になりましたので、ただいまから公共施設マネジメントシンポジウムを開催いたします。

本日は休日のところご参加いただき、誠にありがとうございます。

このシンポジウムは、中央公民館再整備を契機に、公共施設の今後のあり方を考える機会として開催されるものです。

私、本日司会進行を務めます、教育振興部生涯学習課の岸本でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日のシンポジウムですが、議事録作成のため録音いたしますことをご容赦願います。

初めに、町の出席者を紹介させていただきます。

山村広陵町長でございます。

植村教育長でございます。

藤井企画総務部長でございます。

倉田教育振興部長でございます。

芝総合政策課長でございます。

あともうひとつ、後ほど基調講演をいただく国際 PPP 研究所シニアリサーチパートナー、南様でございます。

続きまして、本日の配布資料の確認をいたします。

お手元の資料を確認ください。

まず、本日の次第、その下に A4 横書き広陵中央公民館再整備基本方針について、一番下にアンケートをお付けしております。

資料に不足はございませんでしょうか？

続きまして、質疑の方法について説明いたします。

質疑の方法ですが、挙手いただきまして、ご発言いただく方法と、次第の右下にございます QR コードをスマートフォン等で読み込んでいただいて、入力フォームに質問事項を入力送信いただく方法がございます。

質疑については、次第 4、ディスカッション終了後に一括して行います。

可能な限り多くの方からご意見を頂戴したいところではございますが、公務の都合上、大変申し訳ございませんが、質疑応答を終了とする場合がございます。

その際は QR コードから入力し送信いただくか、アンケートに記載いただきたく存じます。

アンケートですが、シンポジウム終了後に記載いただき、お帰りの際にホール入口でお渡しいただくか、QR コードを読み込んで入力フォームに入力送信くださいますようお願いいたします。

それではここからは、次第に沿って進行をいたします。

広陵町長挨拶 山村町長がご挨拶申し上げます。

(町長) 皆さんおはようございます。

本日中央公民館再整備基本方針についての説明会開催をお願いいたしましたところ、
ぐずついた天気でお、ひんやりとする状況の中、多くの皆様にお集まりいただき、
誠にありがとうございます。

予てより中央公民館を利用していただいております方々から、エレベーターの設置や
防音対策、トイレの改修などを要望いただいております。

昭和 48 年建築で古くなってきたということもございまして、建て替えてほしいとい
うことで、利用されている皆さんが署名活動をされました。

1 万筆以上の署名が集められ、議会にも請願として提出されて、議会の方においても
採択をされたわけでございます。

町としましては、ご要望いただく前に、国の方針により、平成 28 年に公共施設等総合
管理計画を策定いたしました。

中央公民館が耐用年数を迎える時期にこれを廃止し、他の施設との複合化を目指すとい
う計画を定めております。

この他にも数々ある公共施設が耐用年数を迎え、人口が減少することは避けられない
状況におきまして、今の水準を維持することは困難であり、集約再編、また、近隣市
町との相互利用も進めているところでございます。

今日は基調講演を国際 PPP 研究所シニアリサーチパートナーの南学先生に、公共施設
についてお話をいただき、続いて中央公民館再整備基本方針を説明させていただきます。

会場からもご意見をいただき、ディスカッションもお願いをしたいと思います。

最後にご協力をお願いいたしまして、開会のご挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

(司会) 続きまして、次第 2 公共施設マネジメントシンポジウム基調講演に移らせて
いただきます。

準備をいたします間、しばらくお待ちください。

お待たせいたしました。

本日の基調講演ですが、先ほどご紹介いたしました国際 PPP 研究所シニアリサーチパートナー、南学様にご講演いただきます。

南先生の経歴を簡単にご紹介いたします。

1977 年、東京大学卒業後、横浜市役所に入職、1989 年、海外大学院留学で、カリフォルニア大学大学院に留学されております。

その後、市立大学事務局、市長室、企画局を歴任され、退任後は様々な大学で教授を歴任されておまして、現在、国際 PPP 研究所シニアリサーチパートナーとしてご活躍されております。

それでは先生、よろしく願いいたします。

(南先生) 皆さんおはようございます。今ご紹介ありましたように、元々私は横浜市役所に勤めておりました。大学卒業後 1977 年、昭和 52 年ですから、はるか昔の話でございます。

仕事は何かと申しますと公共施設マネジメントになります。公共施設という一番多い施設は何かお分かりでしょうか。様々な公共施設がありますけれども、大体 4 割ぐらい占めているのが小中学校ですね。これが一番大きな面積、数を占めています。

次に庁舎が、それから公民館、体育館、文化ホールその他の施設でありますけれども小中学校がメインです。かなり老朽化しているので義務教育の子どもたちの安全には絶対に配慮してというようなことで、15 年ほど前から公共施設マネジメントという言葉がこの日本に生まれました。

高度経済成長の時代は人口もどんどん増え、社会が豊かになっていく。経済成長率がありますけれども、このときの日本の経済成長率は 10%を超えておりました。

前のお阪万博が 1970 年で 50 年以上前ですけれども、このときの経済成長率が約 11%です。

当時 1970 年ときの合計特殊出生率は、2.2 です。ですから人口が増える。でも 50 数

年経って今どうなっているのでしょうか。経済成長率は1%に届きません。

今年もですね、大体1%ぐらい経済成長するんじゃないかと思ったんですけど、これも皆さんご承知のとおり、トランプショックがあり、全世界でマイナス成長になるようなことが言われています。冒頭に変なことを申し上げましたけれども、実は公共施設マネジメントの一番の問題はお金がないことです。

15年ほど前二つぐらいの自治体がですね、全部の施設がどこにあってどのぐらいの大きさで、築後何年ぐらい経って、どのぐらい老朽化が進んでいて、稼働率がどのぐらいで年間どのぐらいお金を払ってるんだらうということを全数調査しました。

そのときに分かったのは、40年50年経ってる施設が3分の1ぐらい。それを全部、もし建て替えるということになると、町長の方からもお話がありましたけれども、やっぱりお金がかかります。

総務省が日本全国の自治体に、公共施設等総合管理計画を平成28年までに策定してくれと通知を出しました。

もう20数年前ですけど覚えてらっしゃいますでしょうか。夕張市っていうところは財政破綻しました。どうなったかという、上下水道料は3倍に上がった。

七つあった小学校は1個に、職員数は3分の1削るということになったんですが、当時は夕張市だけが破綻したので、全国から応援に来たのでそれで何とかなりました。

そして、20数年経って、市はお金を返したというところなんですけど残念ながら人口はというと、炭鉱の時は10万人くらいだったんですが、今は7千人くらいで非常に厳しいことになっています。

これの二の舞にならないように、公共施設に相当お金がかかるので、できるだけ集約化しようという計画というのが全国で策定されたところです。策定ができないとどうなるのか。

この写真は、2、3週間前の埼玉県八潮市のものです。道路が急に陥没して、ショッキングな映像がいっぱい流れましたね。

1台のトラックが落ちてしまって残念ながらその運転手はまだ見つかっていません。2週間前の新聞記事ですが、ここの部分を大きく全部掘り返すこととしたようですが、ここで運転手を見つけることは諦めたようです。下水管がもう壊れており、これを修

復しないと、周辺 12 の市町の下水が使えなくなる状況です。

当時この事故が起こったときには 2 週間、トイレ、お風呂はなるべく使わないようにという通知が出て、大変、不便な思いをされました。この下水管がどのぐらいの大きさだったかお分かりでしょうか。ちょうどこの舞台の下から、天井ぐらいまでの大きさです。下水道だから人が入るぐらいかしらと思うんですけど、とんでもない。下流の方はですね、各地の下水が合流するので大きな厚さ 50 センチのコンクリートの管だそうですが、下水のいろいろな物質が混ざって強い酸になって、その影響でこのコンクリートがどんどん溶けてします。道路の表面は大体 50 センチぐらいの厚さで、土砂とアスファルトが敷いてあってその下に下水管がありますが、穴が開いてしまうとそこに土砂がどんどん流れ込んでしまっって道路の下に空洞ができ、自動車の重さを支えられなくなり、一瞬にして、数メートルの穴が空いてしまった。

これが八潮市の事例で、こういった事例は、全国で 1 年間に、千以上の数の道路陥没が起こっており、下水管というのは分からないうちに削れていってしまう。それからもう一つ、大変なのは水道管です。下水っていうのは自然に流れていますが、水道っていうのは皆さん蛇口を捻ると水が出るので必ず圧力がかかっています。

ですから管の太さはそんなに大きくないんですが、でもこれももう 50 年 70 年経った水道管が全国各地に張り巡らされていて、それがちょっと錆びて穴が開くとどうなるのか。

今度は圧力がかかっているんで、大噴水になります。横浜で起こった事件ですけども、水道管が破裂して水が噴き上げ、マンションの 5 階が水浸しになるという事件が起こるっていうということで、これは上下水道、道路の問題になりますけれども、建物の問題が非常に大きくてですね、老朽化の対策が不十分だと人が亡くなります。

2012 年、笹子トンネルという、中央自動車道のトンネルで、走ってる最中に、天井板が 200 数十枚、1t から 2t の板が落ちてきて残念ながらここで 9 名の方がお亡くなりになりました。それから 2018 年、このすぐ近くですから記憶にあると思います。大阪の北部地震のときの高槻市の寿栄小学校プールです。

目隠しのために作ったブロック塀が崩れました。震度 6 くらいでした。残念ながらその日通学していた小学校 4 年生の方がブロック塀の下敷きになって亡くなられました。東日本大震災 2011 年ですけども、東京でも震度 5.5 くらいでした。現地は震度 7 ですね。東京で私もすごく揺れてとんでもない状態だった。

何とか助かりましたけれども、残念ながら九段会館という二・二六事件の舞台があったところですが、その天井板が落ちてきて残念ながら、集会をやっていましたので、2名の方が即死でありました。

建物も老朽化すると非常に危険なものです。平成18年埼玉県ふじみ野市というところで流れるプールがありました。

流れるプールはどうして流れるかっていうと、自然には流れませんから、ポンプで水を吸い込み、別の場所で強く押し出す、これで強制的に水の流れを作るので、子供たちは大喜びで、流れるプールを楽しむ。これが20年経ったときに、水を吸い込む部分が危険なので防護柵を付けていた。5年前からもうだいぶ老朽化して、ボルトが緩んでいたのが針金の仮止めの状態が続いていた。これに対してこの市が直営でやっているわけじゃなくて、業者さんが管理運営をしていました。

業者さんが早く直した方がいいですよって言ったけど市役所の方はそんなこと言ってもお金がなかなかないし、何とかなんじゃないのっていうようなことでほっといたら、この日防護柵の針金が外れていて、小学2年生の女子児童が1人引き込まれてしまいました。

お母さんとお兄さんの目の前です。死因は何かっていうと、ものすごい勢いで直角に曲がるところで激突したことによるものでした。プールですけれども溺死ではなく、激突死でした。

これはとんでもない話で、管理が悪いんじゃないかっていうことで、業務上過失致死罪っていうのが刑法上にありますのでその疑いで捜査に入りまして、管理設置者ですから、その場にはいませんでしたけども、市役所の課長さんと係長さんと担当者、それから業者さん、その下請けの業者さん5名が、書類送検されまして検察庁で審査され、結果的にですね、その現場にいない市役所の課長さんと係長さんが、業務上過失致死で、課長さんは1年半、係長さんは1年の禁固刑で確定しました。

最高裁まで争われたということでありまして、いざここで事故が起こった場合には設置者、つまりその施設を設置した人の責任になる。施設を設置した以上、安全を確保しなければいけない。もし不備があったらその不備が解決されない限りその施設を開けてはいけないというのが判例になった非常に厳しい事例でした。

でもこれは大きな事件だからと思うんですが、実は東京のあるところで発生したものが、生涯学習会館、3階建ての建物がありましてエレベーターがあり、エレベーター

の箱の中で人が入る所、こちらがエレベーターホールで、ここの間にちょっと差があるのはお分かりでしょうか。エレベーターっていうのは箱と床がぴったり一致していなければいけないということになっておりまして、毎月のように、点検保守をしていますが、ここ、もうお金がなくなって、築後大体 40 年経った施設ですから、お金がないからというので、エレベーターがちょっとずれて 2.5 センチ、親指のちょっと先っぽぐらいの段差がありました。そこに段差がありますよって注意、一応黄色のテープでしていたが、ここに専門の業者さんがチェックしたら、直ちにこのエレベーターを停止してくださいとなった。なぜならば 2.5 センチの段差ってのは一番危険なんですよ。30 センチ 40 センチもしあればそれは認識できますから、よいしょと越えることができる。ただ、生涯学習会館、ここの公民館その他全国的にもそうですが、高齢者の利用が非常に多いんですね。

高齢者、私ももう高齢者になっておりますけれども、一番私も怖いのが、段差。大きな段差は当然超えますが小石につまずく。あるいは、敷居につまずくっていうのは高齢者の一番危ないことがあります。だから私も気をつけて階段を下りるときに、必ず一緒に横で手すりをつたわりながら降りる。ちょっと段差があるときにはちゃんと気をつけて、意識してそこを越えるようにするっていうなことを気をつけています。そうしないと、ちょっとつまずくと私も 2、3 回転んだことがあります。幸い何も怪我しなかったんですが、高齢者になると、骨も弱くなり、転ぶと骨折をする可能性がある。

骨折をすると入院しなきゃいけない。ていうようなことがあります。東京都のある自治体ですけれども直ちにエレベーターを停止して、きちっと床が合うようになっていいうことで、何百万かお金をかけて整備をしたということになります。ということで、公共施設は非常に厳しいものでありまして、人が傷つくっていうのは、直接傷つくこともあればこういったちょっとした段差を放置するとそれで人が傷つく、あるいはこれが元で、打ち所が悪かったら、ひよっとしたら命を失うかもしれない。

あと、外壁がタイルで張ってある施設も多いですから、浮いて、30 年位経って落ちてくる可能性がある。ですから、今、日本全国の学校です。何件も起こってるんですが、文部科学省の調べによると、年間で 200 件位、学校の校舎の壁がモルタルで処置してあるんですが、それが落っこちてきてっていう事故があります。幸いにして、まだ傷ついたり亡くなったりっていう例がないんですけれども、寸前のところで、落ちまして何とか助かったという事例が相当ある。私も全国を回ってますと、やはりも

う新聞なり、議会で追及されている自治体が年間複数自治体あることは確かであり、私もこの仕事をやってますので北海道から沖縄まで全国で数十の自治体をいろんな形でこの15年間巡ってきて、どの自治体にも行きますけれども、全く同じ状況です。

お金があれば直せるってということなんですが、これあの北海道新聞からちょっと拾ってきました。

北海道内の12の市がもうお金がない。というのが新聞記事の一面です。私も先ほどから何度も申し上げたようにですね、数十自治体回ってますが、特にこの1、2年大変なことがあって、一昨年学校を計画的に全部リニューアルにしよう、長寿命化をしよう、と愛知県豊明市ってことですが、人口15万人ほどです。計画を立ててみたら建築費がものすごく上がってます。

なので計画を立てたけど、そのままもし実施してしまうと、お金が本当に全部なくなっちゃう、福祉にお金が回らなくなっちゃう。というようなことで、全部、学校の長寿命化を見直そう、全面的にやるんじゃなくて少し学校の統廃合も考えなきゃいけないということで、単純に施設の長寿命化を図るのやめてということで、1年間全部計画の見直しっていう事をやりました。あるいは学校の壁が崩落したから全部の学校を点検したら200か所ぐらい、人口は15万の所で学校の数は31校あったんですが、全部点検してみたら約200か所の壁が落っこちる、危ない所があったんで全部カラーコーンを並べてですね、立ち入り禁止にして、順番に直していかなくちゃいけないけども、なかなかお金がないというようなところで、今年、令和7年の予算を何とかごまかしてですね、貯めといた貯金みたいなものを取り崩して、何とか予算を組んだんですが、来年は組めません。

これが、ほとんどの自治体の事例であります。たぶん、広陵町もそれに近い状態ではないかと思います。では、今日の一番の主題について話をいたしましょう。

公共施設の中で公民館って、一体なんなんだろうかということですが、公民館は、社会教育法という法律がございまして、その中に位置づけられています。社会教育っていうのは、学校の教育・活動以外のものを全てを指して社会教育という概念になっています。これは法律第2条で掲げられています。社会教育主事、これは各自治体には必ず設置しなきゃいけないということで、要するに先生のまとめ役みたいな方ですね。学校には校長先生がいっぱいいます。でも社会教育には校長先生がないので、社会教育主事という校長先生が担っています。1788の全部の自治体に社会教育主

事が設置されることになっており、図書館や博物館は社会教育のための機関とする。施設でなく、機関っていうことになっています。公民館も同じく市町村その他の住民のために教育学術文化に関する各種事業を行うという施設として、認められています。公民館は市町村が設置する。県は設置しません。

この公民館の事業は法律第 22 条で定期講座を開設すること、討論会、講習会その他図書、模型、資料を揃え、体育レクリエーションに関する集会をやる、各種団体機関の連絡を取る、その他、その施設を住民の集会その他の公共的利用に関すること、というのが法律上書かれていた公民館事業になります。

ところがですね、やっぱり時代が変わった。

皆さんがずっと地域に居て、皆さんで顔合わせてという時代ではなくなりました。仕事があつたり、サラリーマンが増えたり、というようなことがありまして、定期講座を開設すること、討論会、講習会その他図書、模型、資料を揃え、体育レクリエーションに関する集会をやる、というような事業がなかなかできなくなっているというのが全国の公民館の実情です。

その代わりに、公民館の場所があるので、そこを使わせてほしいってということで、私が回った中では、一つか二つの自治体の一つの館以外は、貸し館が主ということがほとんどであります。おおよそ数十の社会教育団体が認定をされておりまして、その方々が定期的に会場、つまり会議室や研修室や多目的室を使うというのが、今、主流になっています。

貸し館という言葉が悪いかもしれませんが、自主的なサークルの活動の場所となっている。この学校教育と社会教育というこの二つ、これが 1990 年位までは、このカテゴリーが一般的でした。社会教育が公民館を中心に社会教育主事が出て、地域住民が出て、学校には先生が出て児童生徒いる。この二つから外れる様々な活動が出てきたのは 1990 年ぐらい。

皆さんカルチャーセンターという言葉覚えてらっしゃいますか。

今はあまり使いませんが、ただ 1990 年、今から 30 年ちょっと前はデパートだとか新聞社がカルチャーセンターを作り、そこにわんさか人が押し寄せて、特に社会人がもっと勉強したりとか様々な要望に応えるっていう形で、民間の事業者さんが様々な活動をやり始めたということもありました。それに対して、文科省も生涯学習っていう風に言ったらどうか。つまり教育という与えるという概念ではなく、むしろ自分が自

ら勉強するという生涯学習の概念を作ろうということで1990年頃に考えたんです。でも生涯学習って何だろうかという、ゴルフの練習をやるのは生涯学習ですかねとか、みんなで読書会をやるのは生涯学習かもしれないとか、子育てするときに、子どもに読み聞かせをするのは生涯学習なのか、様々なことが出てきて、どうもよくわかんない。

でも、みんながいろんな活動することは確か、ということで、生涯学習とは一体なんだかよくわかんないんだけど、でも皆さん自発的に勉強する社会になりましたよね、ということで生涯学習ということで、文部科学省も社会教育局という一つの部署を、生涯学習局に改めて生涯学習ってのは学校教育社会教育部全部含めたその他様々な自主的な活動を全部言うんですよということになった。

そういうふうに概念が変わったっていうのが今から30年前の1990年頃の出来事でありました。つまりやっぱり時代が変わってくるんですね。公民館の今とこれからってやると、やっぱり公民館も変わってきました。

生活が多様化しています。様々な方が色々あって、役割が変化すると、今、自主事業という公民館主催事業よりも、貸館機能が圧倒的に多くなってきているのが全国的な状況です。多くの自治体で今公民館を名前を変えてですね、コミュニティセンターっていう名前にする自治体が増えている。名前が変わるだけで施設の何が変わるのっていうことなんです、公民館っていうと先ほどの社会教育法の法律の中できちんとした講座を設けなきゃいけないとか、全部の住民が使わなきゃいけないとか、飲食は禁止するとか、政治宗教的なものには使っちゃいけないといろんな意味で制約が伴います。

でも、コミュニティセンターということになると、別に教育施設じゃなくて貸し館的な、様々な活動を全部可能にしますから、飲食も自由にしちゃう、いろんな形でみんなが集える多目的なカフェを設置しましょうとか、というようなこともできるようなところ。コミュニティセンターに変わってきているのは一つの時代の流れです。それから、多目的室って、こちらにもありますが、何か大きな会議で、4、50人が集まって会議をする場所と思うんですが、実はここは80%ぐらいは、健康体操、ヨガ、エアロビクス、社交ダンス、フラダンスっていうな形でスポーツの場になっています。それからいろいろ調べると、常連さん、つまり、いつも使ってる体数名のグループが週に1回2時間ぐらい定期的に利用する形態が非常に多い。それから利用者の大半は、60歳70歳を中心に、60、70、80代の方が公民館を一番よく使うっていうことが

出てきました。それは当たり前ですね。

子供たち、小中高大学生は学校に通ってます。それから勤めている人は、当然仕事場に通ってますから、昼間あるいはちょっと夜の早い時間帯で使う方は、リタイアされた方が中心になっている。これは当然で、じゃあ現役の50代の方が、後、10年経ってリタイアしたらこの公民館を使うのかっていうと、色々なアンケートをとると、使うかもしれないけど、今ほどは使わないかもしれないということです。これは多分、生活のパターンが変わった、その生活のパターンが変わったのは、学歴の差になっているかもしれない。大学に通う人が相当増えているということで、ちょっと生活の感じが違っている。それから、車社会になっている。交通機関が発達して車社会になっている。行動範囲が広がっているということもある。

それから、公共施設の中で一番利用が活発なのは実は図書館ですけども、今図書館にはカフェがないと困るっていうふうに、この10年間で変わってきました。図書館というのは、今では、本を借りるところというより、カフェ、コーヒーを飲みながら、雑誌や本を読むということが一般的だということでもあります。やっぱり50年経つと時代は変わります。

先ほど申しましたように、冒頭に申しましたように、50年経つと、どんどん発展し、人口もどんどん増える社会じゃなくなって、人口がどんどん減っていく、景気はなかなか先行きが読めなくなっている。

高齢化が、全体の人口の高齢化が進んでいる。

時代の変化ですから、施設もそれに対応した様々な施設の対応を変えていかないといけないということです。先ほど言ったように公民館を使う方が、若い方が使わなくなった一番の理由は、ひょっとして、検証できたわけじゃないんですけども、大学や専門学校に通う人が増えたからじゃないかと思います。

どうしてか、小学校はご承知のように徒歩通学が基本です。

ですから文科省の基準でも半径4km以内、大体幼稚園、保育所を上がったばかりの小学校一年生の子でも歩いて通える距離、30分以内ということで、徒歩圏内の小学校。中学校になると自転車になります。ですので、大体二つの小学校で一つの中学校となる。子供たちの通学の間を見ても、徒歩と自転車これはもう地域に根ざしてますから、実は公民館というのは大体小学校区、あるいは中学校に一つずつあるっていうのが世間の実態であります。もちろんこういった中央公民館で、全町的な、あるい

は全市的な施設が地域の公民館、集会所ってというのは、大体小学校区、中学校区の一つというのが基本であります。これが公民館の設置想定エリアです。じゃあ、高校になるとどうなんでしょうか。高校の進学率は98%で、そうすると、歩いて通う子もいますが、高校は県下に広がる。広陵町だと大阪の私立高校に通う子も相当増える。

バスと電車の通学が基本となるということです。実は公共交通機関で、今バスがない電車の本数も少ない。

どういうふうにやったらってということで、町でもコミュニティバスっていうのを走らせていますけども、公共交通の一番利用者が誰かということと高校生です。私も全国いろんな地方に行きますと、電車の駅、バスの主要なバスターミナルは高校生で埋まります。

そんな形でやっぱ高校生はやっぱバス電車がないと通えないということです。ところがですね、この大学専門学校になるとどういうことになるかっていうと、これ全国区になっちゃうんです。ですから広陵町の方だって、東京にあるいは北海道、あるいは九州の大学に行くかもしれない。

さらに言うと専門学校というのもありまして、大体2年か3年で専門的な技術を勉強するというようなことで進学率がですね、今大体大学で去年のデータで60%。高卒の方の60%が大学短大に行く。それから専門学校に行く人が16%。合わせて76%、ほぼ8割がたの方が何らかの形で全国の大学、短大、高等専門学校それから専修学校に行くという時代になっているということです。

そうすると、全国に行くということは、例えば、広陵町から東京の大学に行きますってということになると絶対に通えないですね。

ですから下宿をして、そこに居住するパターンです。

そこで3年ないし4年を過ごすってということで、就職もそっちでやっちゃうかもしれないということになると地域から高等教育、つまり大学短大に行くようになると、地域から出て数年間過ごすようになり、戻ってくる方もいますが、戻ってくる方もいなくなる傾向があるということで、今若者がみんなどんどん流出してしまうっていうのは、地方自治体の一番の悩みでありまして、だから大学のないところは困るんだよってということで、県立大学を作りたいっていう動きが結構あるということです。実は、50年前の1970年を対象にしますと、大学進学率の進学率はわずか35%でした。それが今、70数%で倍になっているということです。

ですから、当然、新幹線、飛行機、高速道路、それから、もう一家に1台から1人1台の車社会になっている。

ていうことになるのと近所の公民館で皆さん集まってというパターンは、だんだん崩れてきているということが言えます。これはもう全国的な一つの傾向です。公民館を考えると、公民館は運営費が必要です。ここの建物を見ると、そんなにお金かかるのかなと思われるかもしれませんが、ここには、職員が居ます。必ず何人かいます。それから修繕をしなきゃいけない、30年を超えたら建て替えしなきゃっていう形で、様々な形でお金が中央公民館でもやっぱり1千万、2千万というお金はどうしても年間かかっています。でも、館全体を使うプログラムは意外と少ないんですね。

グループでの活動が主で、貸し館の利用が大半だということです。それから人が集まればいいんじゃないかっていうことですが、人が集まるためには、飲食がないと人が集まりません。誰もが集まれるっていう場所は、必ず、食べ物や飲み物があって、自由に座席を変えることができるといような場所です。かつてはお酒も飲めたり、寄り合いの場というようなところで、自治会館があったが、今なかなかそれでも人が集まらない。こういった人が集まる場所の設定が難しい。

それから、エアロビクスでもフラダンスでも、いろんな形で講師を呼ぶとなると、お金がかかるんですが、原則、有料のプログラムは、公民館では許されない。

とすると、どうすんだらうか。

でも、講師の人には、お金を払わないといけない。そうすると会費とか色々な名目で払っている。それから固定メンバーにするとなると、どうしてもサークルになるわけです。でも徐々に人が抜けていって、維持が難しくなってこの先10年持つかなあというようなところですよ。

そんなようなことで、四国のある自治体で、公民館を建て替えたいっていう要望があって、お金がないからどうしようかっていうことで、全館の利用状況を調べました。

そうしましたら、公民館を使ってる人が、全館使ってる人が、ほとんどいないということが分かりました。皆さん和室に来て、囲碁・将棋をやって帰っちゃう。

多目的室で、健康体操やヨガをやって帰っていく、会議室でグループで読書会をやって帰っちゃう。

それぞれが部屋を使う人がいるんだけど、館全体として、ここも相当な部屋があ

りますけれども、全体を使う人はなかなかいない。年に何回かの公民館祭りで使うパターンが一般的です。基本的には公民館に対して、何を求めるのかということ、自分達で使える部屋があれば良いということが主なので、部屋を確保すればいいんじゃないかということになります。ところが、部屋を確保しても、今、公共施設に場が提供できていない方々がいらっしやいます。

どうということか。

0歳から2歳ぐらいの子育てママ友さん。場所がないんです。

子どもは、泣いちゃったりとか、遊び場がないだとか、大型のスーパーマーケットショッピングセンターがあればいいんですけれども、なかなか無い。だから公園で交流する。だけれども、寒いときや、雨や風の時は、なかなか交流できない。ということで、子育てママ友の場所を確保するいくつかの自治体で積極的に作っているところがある。それから、部活動に属していない中高生は以外と居場所がないです。図書館にある学習室があるからいいんじゃないかということですが、普通の図書館の学習室は綺麗に机が並んでいて、昼寝しちゃ駄目ですよ、荷物置きゃなしは駄目ですよ、食べたり飲んだりしてたらダメ、お話しちゃったらダメ、ゲームしたらダメということで、禁止事項が多いので中学高校生そんなところに行きたくない。中学高校生が集まる場所はこういうところかっていうと、自動販売機が置いてあって、飲み物とおやつがあって、机や椅子が自由にちょっと動かせる、お喋りしても大丈夫っていうところに中学高校生が集まる。

ということで、コンビニのイトインコーナーというようなところに集まっています。これも、積極的に中高生のための場所を確保する自治体がいくつか出始めている。もう一つ65歳以上の年金生活をしている男性もなかなか行き場所がない。四国の高松市の競輪場をどうしようか、競輪もギャンブルになるし、これから下火になるし、やめた方がいいんじゃないですかねって話をして、一回見学に行ったんですけど、びっくりしました。年間300日、毎日千人の高齢男性が集まるんです。

その競輪場で自転車が走るの、年間30日ぐらい。でも、全国各地でやってる競輪の様子は全部テレビで中継されて、そこで投票できます。

片手にペットボトル、片手におにぎり、それから千円を持って日がな一日集まれるっていう場所が実は高齢男性にとって、一番いい場所だったっていうのがわかったのが高松市の事例です。1日千人。すごいですよ。冷暖房も整っているし、ちょっと面白

く、あっちこっちのレースもやるし、仲間も適当にいるし、別に何がって、座って水飲んで、おにぎり食べてれば、ほとんどお金もかからないし、ちょっとしたお金だけで、それだけで楽しんじゃう。行くのもバス代その他のチケットも配っており、一番いい場所であるということで、高松市競輪場は建て替えするということになってます。

そんなことで実は人の活動を見ると、施設はどうなんだろうということで、今私が提唱してるのは、小学校の活用です。小学校の稼働率は実は2割しかないんです。

だって月曜から金曜日まで、朝8時くらいから午後3時、4時ぐらい、放課後、土日、夜間、夏休み、冬休み、春休み、全部空いてます。でも空いてるけど使ったらセキュリティの問題はどうするのか。ところが、セキュリティの問題は、大阪の池田小学校で20年前殺傷事件が起こったから言われてまして、以前は学校ごと開放しようっていう動きがあったんですが、それがあの事件のおかげで、全部セキュリティで終日誰も立ち入れないようにしたんですが、それは、間違いだと思います。学校のセキュリティって何のためにあるのかというと、子どもの命を守るためです。であれば、子どもがいない時は、開け放してもいいということですよ。

現実にはいろんなタイプの学校が出来はじめまして、地域に開放する学校。この近くだと、兵庫県の明石市。人口30万で、学校は50校くらいですが、全部の小・中学校にコミュニティセンターが併設されていて、子供たちが授業をやっている時間帯も、近所の方々が来て卓球をやったりだとか、体操をやったりだとか、いろんな講座をやったりというのを学校の中でやってます。

1件も事故が起こっていない。このような事例もあるんで、あまり、固定的な概念で、学校のセキュリティを考えるのは変えたほうが良い。学校の施設、冒頭に申し上げました公共施設の中で、最も数が多くて面積が大きいのが、小中学校です。中学校は部活動があるので限られますが、小中学校は全国で約1万8千校あります。ここに全部体育館もあれば、校庭もあるし、空き教室、特別教室があつて、音楽教室や家庭科教室や工作室を開放したら、公民館以上のスペースがとれる可能性がある。現にそういったプランを立てている自治体も少しずつ現れています。ということで、小学校施設で何ができるかといいますと、全て活動ができます。もちろん時間的な制約があります。

セキュリティもやっぱりちゃんと守らないといけない。それを考えるときに、教員室とクラスルーム、これは絶対立ち入っちゃいけない場所。ですが、特別教室、その

他、色々な部屋は、いっぱいあるし、校庭も空いていけば使える。学校は、全面的開放ではなくて、教員室とクラスルームは誰も立ち入らないようにすれば、その他の部分は管理形態をしっかりとすれば、相当に使える場所になるということです。こういうのはぜひ実現しようということで、今、あちこちの自治体に対して、小学校の中の部屋をうまく活用してくださいと言っています。

公共施設それぞれを、個別の目的で全部作っていけば、それが一番幸せなんです、それは 50 年前までの話でありまして、今、お金がないので、それはできません。

借金すればいいじゃないかと言いますが、借金すれば当然、子や孫の負担になります。借金すれば道路、上下水道の維持を優先しないと、とんでもない道路陥没、実は広陵町でも起こる可能性はあります。

広陵町は、3 万 5 千人の町ですから、上水道は県の管理になりますが、上の道路の管理は広陵町です。なので、穴が空く可能性があって、レーダーとか使ってしょっちゅう監視していないと、ある日、突然、陥没が起こって大事故になる可能性があります。

それと、上下水道は公営企業なので、一応きちんとすると、上下水道料金はぐんと上がることになる。いろんな施設にお金を使うと、国民健康保険や介護保険料の一部は税金で補填をしていますから、これの料金も上がるということになります。それから、学校の十分な教育もできなくなる可能性があるし、そうすると人が育たない。

災害対策も十分なことができなくなるということになると、そういう自治体では、ここでは暮らしていけないからもっといい自治体に行こうかという形で人がどんどん移住してしまいます。開放的な新しい学校を作っているところに、移住者が相当集まるという事例があります。去年北海道のある 7 千人の小さな町で、今までの概念を打破って自由に使える、小中一貫校の義務教育学校ができたのですが、お話を聞いたら、図書館、体育館、多目的室、全部町の人と共有出来て、とってもおしゃれな建物でした。お話を聞いたら、人口 7 千人の町に毎年 40 家庭、合計で 100 人弱の方が移住してくるそうです。そんなことが、現実的に起ころうとしている。広陵町をできるだけ魅力的な所にするためには、施設を縮充という言葉を使っています。拡充の時代は終わってしまったので、縮小の時代ですけれども、縮小だと暗くて、イメージが悪いので、小さくなくても稼働率を上げて魅力的で楽しめる、みんなが使える施設になればいいんじゃないかということで、小さく縮めながらも機能は充実させるという意味

で縮充という言葉を使っています。今ですから広陵町も縮充を進めて魅力的なまちにして、何とか人口を維持していくようなところになったらなあというのが私の思いです。ちょっと時間を超過して恐縮でございますけれども、広陵町の事情はちょっとだけしか知らないので、ちょっと一般的な話ばかりで恐縮ですが、今公共施設、とにかく縮充を進めないと様々な意味で、福祉も教育もなりたたなくなっていくという厳しい時代になってきましたので、その辺のご理解を進めていただければというふうに思っています。

急ぎ足で、ちょっと色々と分かりにくいところもあるかもしれませんが、次のディスカッションの場で詰めていければと思います。どうも御清聴ありがとうございました。

(司会) 南先生ありがとうございました。

南先生におかれましては、ディスカッションにも参加いただきます。

また後ほどよろしく願いいたします。

次第の3に移る前に準備をいたします間、しばらくお待ちください。

お待たせいたしました。

続きまして次第3 公民館再整備基本方針について企画総務部総合政策課長芝がご説明申し上げます。

(芝課長) 失礼いたします。

総合政策課芝でございます。

よろしく願いいたします。

私の方からですね、広陵中央公民館再整備基本方針についてご説明をさせていただくわけですが、まず本町ですね、公共施設の現状を皆様にご存知いただくことが重要であると思いますので、町の公共施設全般のマネジメントを所管しております私の方からですね、町全体の公共施設の概要をご説明をさせていただきたいと思

ますのでよろしく申し上げます。

本日4項目について10分から15分程度でご説明をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくごお願いいたします。

まず初めに広陵町の公共施設等の現況についてご説明させていただきます。

まず町の人口はですね、町の発展とともに順調に右肩上がりが増えてまいりました。

しかしながらですね、5年ごとの人口動態を見てみますと、2025年には初めて人口が減少した状況でございます。

また今後もですね、日本全体の人口予測と同様に、本町におきましても、人口減少傾向にあるというふうに予測しているところでございます。

人口減少になりますと、税収の減収や様々な政策転換が必要になると考えられますので今後いろいろな方策を考えていかないといけないというふうに考えております。

次に公共施設についてでございますが、人口の増加とともにその時々で必要な施設を建設し、現在に至っております。

広陵町の施設の特徴といたしましては大きく三つの時代に建設されておまして第一グループでは、まちの形成期ということで、小学校や役場庁舎、中央公民館などのシンボリックな公共施設が建設されました。

次に第二グループでございます。

第二グループでは、町の発展期といたしまして、国民体育大会の開催ですとか、現URによる住宅開発、これ真美ヶ丘地域でありますけれどもこういったところで、必要な公共施設が多数建設されてきたところでございます。最後に第三グループでは、成熟期といたしまして町の更なる発展のため、図書館や福祉会館さわやかホールでございますが、こういったもの、それからリレーセンター広陵、こういう町民皆様の生活を豊かにする公共施設の建設が行われきております。

しかしながらですね、現状、これらの公共施設の大半が老朽化している状況でございます。建物の老朽度具合を示します、固定資産減価償却率は約68%となっております。

総務省の資料によりますと、固定資産減価償却率といえますのは、いわゆる有形固定

資産の内ですね、取得価格に対する減価償却率の累計額の割合を算出したものでございまして、一般的には50%を超えると老朽化が進行していると言われておりますので、本町の公共施設は約68%ですので、相当老朽化していることがわかるかなと思えます。また、現状93施設のうち建物を50年間使用するとした場合、主要な30施設における今後30年間に必要となる更新費につきましては約376億円というふうに試算をされており、単純計算で毎年約12億円の更新が必要となってまいります。

先ほど南先生のご説明にもございましたけれども、道路、橋梁、水道、下水道といった土木インフラもですね、町の発展とともに、種々整備されておりました、こちらの土木インフラにつきましても、やはりかなり老朽化が進んでいるという状況でございます。

併せて、人口がですね、減少傾向にあるというふうにご説明させていただきましたが、今後人口構成も大きく変化してまいりまして、高齢化による福祉費の増大ということもございまして、現状建物改修費のみにお金を使うことが難しい状況であります。

しかしながら、現在、保有している公共施設と申しますのは、人口が増加する時代に必要な施設として建設しておりますので、今後人口が減少し、人口構成も大きく変化することがわかっておりますので建て替え時期を迎える公共施設につきましては、同じものを同じ規模、同じような内容で建て替えするのではなくて、複合化ですとか時代に合った機能を付加するなどしてですね、公共施設を再編等していくことで必要となる更新費を賄っていくことは可能なのではないかとこのように考えております。

こういったことから、平成27年度に広陵町公共施設等総合管理計画というものを策定いたしまして、本町が保有する公共施設について、今後複合化等を行いながら、人口減少期にも耐えうる建設費を試算し、延床面積をですね、約2割程度削減しようということを目指して掲げさせていただいたところでございます。

これがですね、人口上昇期に建設した施設の老朽化が著しいということが本町の特筆すべき課題なのかなというふうに思います。

それではですね、中央公民館再整備に伴う整備についてご説明をさせていただきます。

広陵中央公民館はですね、文化芸術活動の拠点といたしまして、昭和48年に開館をさせていただきます。その中で様々な文化芸術活動を実施してきたところでございま

す。

しかしながら現在、築後 52 年が経過しておりまして、施設の老朽化の課題があり、先ほど説明いたしました広陵町総合公共施設等総合管理計画の中では、耐用年数をもって廃止し、他の施設と包括することとさせていただいたところです。この方針が発表された後に、平成 29 年 8 月にですね、中央公民館の建て替えを要望する会から町長に対しまして、広陵中央公民館の早期の建て替えに関する要望書が 1 万人の署名を添えて提出され、同年 12 月 1 日には、同会から議会に対しまして、広陵中央公民館の早期建て替えを求める請願書が提出され、全会一致で採択採決されたことを受けまして、令和元年 12 月に条例に基づく会議体として広陵町の公民館を建て替え及び文化芸術の振興のあり方検討委員会を設置したところでございます。

その後、検討委員会から、令和 4 年に広陵町の公民館建て替え及び文化芸術の振興のあり方に関する答申が提出されまして、それを踏まえ、広陵町の文化芸術推進基本計画を策定させていただいたところでございます。

答申経過と基本計画を踏まえまして、公民館の再整備の検討を行うこととさせていただいたところでございます。

続きまして中央公民館再整備基本方針についてご説明をさせていただきます。

まず答申結果と基本計画を基にですね、令和 4 年度には再整備検討基礎調査を行いまして、公共施設としての安全性、財政的負担の持続性、現在の中央公民館が果たしている機能の確保、これら三つをですね、同時に実現する方法を検討することとさせていただいたところでございます。

これは中央公民館同様に、役場庁舎及び広陵西小学校等、他の公共施設もですね相当老朽化が進んでおりますので、厳しい財政状況の中、重複する施設改修について、最善の整備手法を検討させていただいたところでございます。

先にご説明をさせていただきましたが、今後も施設を存続させるとした施設はですね、約 30 施設ございまして施設改修を 50 年の改築期間で実施した場合、おおよそ 376 億円の改修費が必要となると試算しておりますので、合わせて上下水道の土木インフラ等ですね、更新費も発生してまいりますからそういったことを複合的に検討させていただいたところでございます。

このような中ですね、先ほど申しました答申結果ですとか、公共施設等総合管理計画

を前提といたしまして、複数ある整備手法の中から基本方針案ベースの三つの手法を選択したところでございます。

一つ目は、答申案に基づく更新でございます。

これは、固定席 300 席を確保いたしまして現状と同規模で建て替えるというものです。二つ目は、はしお元気村多目的ホールを改修し、公民館ホールとして利用し、公民館機能を付加するものでございます。

三つ目につきましては、さわやかホール、福祉会館でございますが、この福祉会館さわやかホールの大会議室を改修して、ホールとして利用し、公民館機能を付加するものでございます。

これら三つの選択肢を踏まえまして令和 5 年度に広陵中央公民館再整備基本方針の検討を行わせていただいたものでございます。

令和 5 年度では、検討に当たりまして建築面、都市計画面及び財政面等を考慮し、併せて住民アンケートそれから住民ワークショップこういったものも実施させていただきました。

併せて民間事業者へのサウンディング型市場調査、これはですね一般的に民間がこの施設について公民連携手法で実施できるのかというものを聞き取るものでございまして、サウンディング調査ということで実施をさせていただいております。

1 案では答申結果に基づき、現地建て替えるもの、2 案では現状施設の躯体を活用しながら大規模改修するもの、3 案では他の公共施設との複合化を行うものとしております。

整備方針といたしましては住民アンケート等により住民支持が一番多かった 3 案の集約再編案をもとに施設整備を実施していきたいということでお示しをさせていただいたものでございます。この基本方針につきましては、具体的には 2 段階での整備を予定しておりまして、まず第 1 ステップといたしましては、公民館の安全性を考慮し、代替施設として利用するはしお元気村の改修を実施させていただくもので、その後、新複合施設といたしまして、老朽化している庁舎ですとかこういったものを複合施設として、公民館を整備させていただくものでございます。

第 1 ステップといたしましては、令和 6 年度、7 年度におきまして、はしお元気村改修における公民連携事業の検討、事業者公募等の手続を行いまして、令和 8 年度か

ら、いわゆる公民連携手法でございます PFI 事業等により、改修工事に着手していき
たいというふうに考えております。

その後、第 2 ステップといたしまして新複合施設の事業計画策定等に移行していけれ
ばというふうに考えているところでございます。

次に公民間再整備のスケジュールについてでございますが、原則基本方針でお示しを
させていただいた今後 10 年間のスケジュールにつきましては、こちらの先ほどの事業
計画のとおりでございますが、利用者目線で改修工事も踏まえたスケジュールについ
てご説明をさせていただきたいというふうに考えております。

まず改修工事に当たりまして必要な諸室スペースをどの程度確保する必要があるのか
っていうのを把握する必要がございましたので、令和 7 年 2 月にですね、公民館で活
動していただいております育成クラブに対しましてアンケート調査を実施させていた
だきました。

質問項目につきましては、資料に掲載のとおりでございますが、活動頻度、活動人
数、部屋の間取り等をお聞きしております。

このアンケート結果を踏まえまして、第 1 ステップで改修するはしお元気村の必要面
積等を把握させていただいたところでございます。

またですね、その中で自由意見といたしまして、いくつかの団体の方からはですね、
グリーンパレス、さわやかホール福祉会館の横に立っておりますが、このグリーンパ
レスを利用したいということで回答いただきました。

このことから、はしお元気村の改修に合わせまして、グリーンパレスも当然施設とし
て利用していただくことは可能でございますので利用できるようにですね、今後ご意
見いただいた各種団体の皆さんともヒアリングを重ねながら最低限の改修をさせてい
ただきたいというふうに考えております。

施設ごとの改修内容について、記載をさせていただいております。中央公民館は令和
7 年、8 年中は引き続きご利用いただくことといたしまして、令和 8 年からはしお元気
村、それからグリーンパレスにつきまして一部改修を予定しております。

さわやかホールの 3 階の一部も公民館機能として活用予定としておりますけれど、
こちらにつきましては現状のままご利用いただく予定として考えております。

目標といたしましては、令和9年に中央公民館からそれぞれの施設への移行をしていただきたく、予定をさせていただいているところでございます。

次のページには、はしお元気村の改修後のイメージパースをつけさせていただいております。

今回ですね、施設の内部改修がメインになっておりますので、左側の外観図につきましては大きな変更がございません。

ただ、公民連携手法を今回採用させていただきたいというふうに考えておりますので、民間提案の内容によりますが、近隣で箸尾工業団地の造成も始まりますので、そういったところで民間投資の可能性というところも今後期待できるのではないかと考えております。

その場合、少し外部のところには何かしらの施設が立地されるのではないかとというふうに考えておりますが、現状町が予定しているものは大きな変更はございません。また内部改修でございますが、今回ちょっとホールのイメージ図のイメージパースをつけさせていただいておりますけれども、音響改修等を予定しておりますが、いろんな団体の方が利用できるような整備を目指していきたいというふうに考えております。

最後のページでございますが、これは先ほどご説明いたしました第2ステップ、いわゆる10年後の新複合施設のイメージパースをつけさせていただいております。

新複合施設につきましては、利用者に重点を置きまして、様々な年齢層性別、個人、国籍の方が様々な目的で集まって活発に活動している状況を想像させていただいております。

賑わいのある施設整備を目指していきたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願いたしたいと思っております。

以上がですね、広陵中央公民館の基本方針に関する説明となります。

ご清聴ありがとうございました。

(司会) 続きまして、次第4、ディスカッションに移らせていただきます。

準備をいたします間、しばらくお待ちください。

それでは準備が整いましたので、始めさせていただきます。

初めに、ディスカッションにご参加いただく方をご紹介します。

山村町長でございます。

植村教育長でございます。

広陵町区長自治会長会会長、塚本様でございます。

広陵町文化芸術推進審議会副会長、杉本様でございます。

広陵町自治基本条例推進審議委員、棕本様でございます。

国際 PPP 研究所シニアリサーチパートナー、南様でございます。

それでは、ディスカッションの進行につきましては南先生にお願いいたしたく存じます。

それでは先生、どうぞよろしくお願いいたします。

（南先生）それではですね、ディスカッションのための公共施設の話とそれから公民館の話をもっと最初にですね、町長からお願いします。

（町長）それでは座ったままで失礼をいたします。

公民館の整備については先ほども冒頭、私の挨拶で申し上げましたように、利用していただいている皆様方から、公共施設等総合管理計画を発表して、その中に公民館を廃止するという言葉が非常に衝撃的であったために、この公民館がなくなるということで1万人の署名を集めていただいて、要望を提出していただいたわけでございます。議会の方でも、請願として採択をされたということでございます。そこに至るまで、利用者の皆様方からエレベーターがないトイレが古い音響が悪いという様々なご要望も頂戴していたわけでございます。

その都度要望に応じて、あちこち増築をしたということもございます。

その増築が、建築基準法の規定に基づく手続きが不十分であったために手を加えられず、県の方に申請するにも、なかなか多くの費用を必要とするということで、これでは進められないなということになったわけでございます。

要望いただく前に、公共施設等総合管理計画を策定しておりまして、やはりこれから人口減少するに当たって、施設の数も減らしていかなければならない。

ただ利用していただく皆さんにご不便をかけないためにはどうしていくかということは今後もよく相談をして進めていこうという内容でもございます。

私も町職員として財政を担当したことがございまして、当時のこの公民館の前に建てております中央体育館、それからグリーンパレス、北小学校の改築、町内のミニ体育館の整備や立て続けに公共施設の整備をされた時代がございまして、私、財政担当しておりまして、そのときに補助金があるわけではございませんので、ほとんどが起債、借入れ、借金で建てたわけでございます。

財政を担当している者からすれば、この借金の回数、年度というのははっきり分かるわけでございます。いずれ近々赤字になるということが見えておりましたので、私は1職員でございましたが、人事異動で次の担当に財政を引き継ぐときに、必ず赤字になるからよろしく頼むと、いわゆる行財政改革をやってもらわないといけないというふうに担当に事務引継ぎをさせていただきました。結果、確かに赤字になりました。

ただ、今の時代と違って、そのときは人口が右肩上がりの真美ヶ丘ニュータウンの入居が始まる直前でもございます。人口がどんどん増え、そして税収も増えたおかげで、その赤字から脱却できたということでございます。

ただ先ほど南先生からお話ありましたように、人口が減少局面になる今この時期には、やはり公共施設を減らしていく、機能を残しつつ、今ある公共施設で利用していただく方法がやはり必要ではないかということで、要望にはお答えできなかったわけではございますが、最終的に役場庁舎と中央公民館、また、グリーンパレスを合わせてさわやかホールと一緒に有効に活用していただいて賑わいのある拠点にできればということを提案させていただきました。

当面はこの公民館を利用停止をさせていただかなければなりません。その代替措置としてはしお元気村、グリーンパレスを整備をさせていただいて、ご不自由のないようにしていただきたいというのが私の方針でございます。

(南先生) はい、ありがとうございました。

町の状況についてはまず町長からいただいた方が全般的なお話っていうか、広陵町の立場が分かるので良かったかと思えます。次に住民の立場から塚本様、杉本様、椋本

様にそれぞれコメントをいただきたいと思いますが、最初に塚本さんからお願いします。

(塚本会長) 私どもとしてはですね、一応区の住民さんとかにこの件についてどうかっていうふうなところっていうのは、割とよく聞くんですけども、ほとんどの人が関心がないというのが現状でありまして、そういう意味では公民館の例えば活動とか、割と近くにいらっしゃる方はある程度公民館をこれからどうしたらいいんやろっていうふうなことを思っている方いらっしゃいますし、でもほとんどの方はあんまり公民館活動に参加してない、っていうところがあるんで、あまり関心がないっていうふうなところなんです。ただそういう中でもですね、一応先ほど南先生のお話の中にもありましたように、フルスペックでですね今ある施設を建て替えるっていうのは、これから人口の減っていく局面、それから高齢化がどんどん進んでいくっていう中で、町として施設を維持していくことができるのかどうかっていうふうなところで、将来の世代にですね負担をかけるような整備もしてもいかなのかなっていうふうなことがありますので、そういう意味で言うと先ほど南先生の方からお話がありましたように、中心になる他で代替できないような機能の部分だけをまず公民館、中央公民館として整備し、残りについて小学校の施設を利用するとか、既存のグリーンパレスを利用するとか現在のその活動あるいはまたこれからさらに発展させることができるように町内にある施設を総合的に運用していくような仕組み作りっていうのが必要なのではないのかなっていうふうなことを思っております。以上です。

(南先生) はい、ありがとうございました。

続きまして杉本さんお願いします。

(杉本副会長) 私は、この広陵町に来て、10 数年になります。

元々私、落語が好きだったんで落語の楽しさを知ってもらいたいというのがありまして広陵寄席を立ち上げまして、10 数年やっています。

年3回か2回やってきてまして、そのときに、今はこのホールを使わせてもらってるんですけどやっぱりすごくいいんですよ。200 人近いお客さん入ってくれはったんでここでやらせてもらうことがすごくありがたかったんです。

お客さんの中で一番嬉しかったのは、アンケート取ってるんですけど、この寄席がなかったら広陵町に来ることは絶対なかったとおっしゃる方が何人かおられまして、もちろん広陵町の方が来てくれますし、町内外、県外からも来ていただけるようになり

ましたんでちょっとでも広陵町のことを知ってもらうのにも少しだけでも貢献できてんのかなと思っています。でも私も自分でも落語をしたくなりまして広陵町で落語教室っていうのをやってもらいまして、続いて、落語サークルを立ち上げまして、活動してます。

昨日もうちの子供たちと一緒に落語をしてきたんですけれども、皆さん喜んでくれるし、今やってることがだんだんだんだん実を結んできてるなっていうふうには実感はしております。

施設設備の話をしますと公民館のホールが併設されてるってのはものすごく使い勝手よかったです。

だから当初はもうこのこんな形で続けてほしいなと。閉館というか、建て替えになっても、この形がいいなとは思ってたんですけどもさっきも南先生の話聞かせてもらってやっぱり一番大事なのはやっぱり子どもに、将来の子供に大きな借金残していくのは、我々大人としてあかんことやと思います。そうなったらその機能を移転していくような話がやっぱり落としどころとしてはいいのかなと思います。いろんな人の話聞かしてもらったら、ただホールとしましては、近隣いろんな大きなホールありますよね、そこも連携して使えるようになったらっていうこともあるんですけど、やっぱり先ほども言いましたように例えば広陵寄席をここでするっていう意味が絶対あるわけで広陵に来てもらわないと、広陵町を知ってもらえませんのでちょっと規模を縮小してでも維持費ちょっと落としても、ホールがあればこれからも使っていけるんだけどなど、そんな思いをそんなことを考えながら、お話を聞きました。以上です。

（南先生）ありがとうございました。

続きまして、棕本さんお願いします。

（棕本委員）今日お話を聞いた感想ですけれども、私自身、生まれも育ちも広陵町ですが、こちらのホールは成人式で利用したことがあったり、家庭教育学級であったりとか、お友達のことを見に行かせてもらったことはありますが、公民館を使わしてもらったことは残念ながらありません。南先生にもお話を聞いてまして、学歴の伸展で使っていないっていう若い方が多いんじゃないかなっていうふうなお話がありました。

けれどもそもそも公民館使っているんだよっていうの知らない方が多いんじゃないかなっていうふうに思ってた、自分たちが何かしたいって思うときに使えるっていう

のをそもそも知らないんじゃないかなと思います。

私達のような私のような子育て世代の若いお母さんたちの声を聞くっていうのがやっぱり住民アンケートの中で課題になると思いました。

こちらの公民館も中央公民館の中の雰囲気はなんかどんよりしてるのが、人が何か寄り付かない原因なんじゃないかと思います。新しく綺麗になったらきっと何か利用したくなるんじゃないかというふうに思いました。これからもし、はしお元気村であったりとかさわやかホールであの毎年行われた文化祭みたいなことができるのかなっていうのも思っていて、駐車場問題は日頃からの私も多少利用もさせてもらってるんですけど小学校の行事のときは、すごいもう駐車場がいっぱいで、先生たちがもう謝りに行かれてます。

やっぱりそういう状況も知ってるのでなかなか難しいんじゃないかなっていうふうには思っていて、公民館を利用されてる方のお話とかもシンポジウムの前に聞く機会があって、子ども会とかで使えたりとか、少し借りたいときとかに、中央公民館で家庭科室があったり畳の部屋があったり、すごい良かったっていうお話を伺いました。それがやっぱり、はしお元気村やさわやかホールが担うってなってしまうと借り側のハードルも上がるんじゃないかなっていうふうに思っています。そして成人式の式典っていう、こういうふさわしい場所を何か残しておきたいなっていう意味では、私の母親もなんですけど、やっぱりなんか、別の場所でももちろん活動はできると思うんですけど、なんかやっぱりそういう規模の活動してた場所がなくなってしまう、公民館じゃなくなってセンターになるっていうのは、何か年齢的には受け入れ難いというのが、そういう気持ちがあるみたいで年配の利用者さんが多いと思うので、そういうお気持ちも汲んであげてもいいのかなって思いました。複合型になるんだったら、あのなかよし広場のようなプレイルームをやっぱり作ってくださったら、20代30代のお母さんたちが集うようになると思うんです。

やっぱりそこに保健師さんがいれば、子育ての相談も乗ってもらえるんですけどいらっしやらなかつたらいらっしやらなかつたで、お母さんたちだけで勝手に自然に会話が広がると思ったり、中高生の居場所っていうので、もう南先生がおっしゃられたと思うんですけどもこの公民館で広陵中学のすぐそばだと思うんですが、塾に通っているお子さんって自習スペースがあるんでいいんですけど、家庭の事情で塾とか行かれてない方って、やっぱり図書館で使っても広々しすぎて落ち着かないっていうふうに言って、やっぱり壁がある自習スペースが欲しいねっていうふう

聞きました。

やっぱりそういう幅広い世代が使いやすいようになればいいなと思ってます。やっぱりその中央公民館って子供から大人まで夢を持たせる場所であってほしいなっていうふうに思ってるんで、皆さんが気持ちよく活動ができれば思ってます。

（南先生）ありがとうございます。

成人式その他では使われることはありますが、公共施設を利用される方を無作為抽出で市民住民のアンケートを取った自治体があります。その数字、そのデータを見るとほぼ共通しているのは、一番使う施設ってみんななどの自治体も図書館が一番使われるんですけど、残念ながら日常的に使うのは全住民の中の10%程度で、次に使われるのが体育館。8割の方は公共施設を一回も使ったことがない、あと二、三割の方は場所も知らない。

ですから、使ってる方にとっては大事な施設ですが、町全体で考えるとどういうかたちがいいだろうかっていうことです。今流行っているのは複合型の図書館で、カフェがあって有料の学習室もある。要するに今までの建物の概念を崩したものがあります。そこでですね、教育的観点から見て、公民館というものをどのように考えているか教育長の方からお願いします。

（教育長）失礼します。教育長の植村でございます。

私は子供が好きで教員になった人間でして、38年間教員をしてきました。

その後、今こういう立場にさせていただいているわけです。その間、子供たちのためにどうあるべきかって常に自分は考えてきたようには思います。今でもその思いは変わりません。

ただ、こういう役職に就いた以上は、町全体の教育を考えていかなきゃなりませんし、実際に中央公民館というのは教育委員会の管轄でもございます。そういう意味ではこの公民館をどうあるべきかっていうのを、やはり考えていかんと駄目だというふうに思ってます。

もう一つは先ほども南先生いろいろ話をさせていただきましたし、これまでも中央公民館の建て替えの関係、それから今日話をさせていただきましたけども、基本構想について、私の方の思いとしてはですね、まずはやはり一番大事なことは子供たちに借金を背負わせないというのは私はこれは大前提だと思っています。やはり何とかうまく有

効活用すべきだと思います。例えば先ほど南先生お話ありましたけども、小学校の建物の中では、確かにもう子供たちがいなくなれば、ほぼ活用されていませんので、そういうところもやはりしっかりと考えていかなきゃならない。

できる限り稼働率を高めながら利用していくというのがすごく大事だと思います。

そういう意味では、私もこういう立場になった以上は、やはり公民館のこの基本構想の中でですね、もうここはやはり建築基準法に違反してるような建物っていうことで令和9年には閉鎖ということで、いろんな機能を元氣村とそれからグリーンパレスに機能移転をしていく、改修費は当然いりますけども、そこはやっぱり必要ではないかなと思ってます。

それともう一つは、やはり利用者の方々が限られては駄目だと思います。私が一番思うのは、若者世代、そして子供たちも利用できるような、そのためには、先ほど南先生から話がありましたけど、やはりカフェとかそういうものも併設した中で人が集うっていう場所、そこが一番大事かなというふうに思ってます。その辺も含めたやっぱり整備も必要、重要ではないかなと思います。もう一つは、今子供たちの居場所をどう作っていかなければならないというところで、学校ではない居場所、これもやはり教育委員会の一つの課題なんですけど、実際のところ広陵町も不登校の子供たちが非常に多くなってきています。

そういう子供たちが学校でなくても、違うところで何らかの形で集える場所、そして人間関係を作っていくって、社会人になっていくっていう、そういう居場所作り、子どもたちや若者世代も使えるような、何かそういったことが一番いいのかなって私日々思っております。

ちょっと答えになってないかもしれませんが、申し訳ございませんでした。

(南先生) はい、どうもありがとうございました。

皆さん方の意見を聞くと、まず大前提ですね、行政の方は、やっぱり限られたお金とそれをどういうふうにするのか、そういった意味ではやはり施設を集約しなければなりません。でも、利用する方々、あるいは地域の方々にもっと広陵町もの売り込めるような、アピールできるような施設、あるいはそれぞれの考える施設っていう期待が色々あって統一できていないというのが現状じゃないかと思います。そういったところで、ここだけは残してほしいという施設について、皆さんに伺いたいと思います。棕本委員いかがでしょうか。

(椋本委員) やっぱり人が集う場所というのは残してほしいです。

(南先生) 杉本副会長いかがでしょうか。

(杉本副会長) はい先ほど申しましたように、こぢんまりとしたホールです。

もちろん落語だけでなく音楽もできたり様々な活動ができる。それを楽しめる場所は僕はもう絶対必要だなと思ってます。以上です。

(南先生) 塚本会長いかがでしょうか。

(塚本会長) はい、私も一応、いろんな活動されてる人がですね活動の内容を発表できる場っていうか、そういう場っていうのを用意してあげるっていうのは、とても大事なことなのかなというふうに思いますのでそのところは何とか守っていただきたいというようなことと、もう一つ施設の利用に当たってのルールというのがものすごく大事だと思うんですけども、法律の制限であるとかで、できないことっていうのはいろいろあるかと思われませんが、できるだけそういう制限のないような施設にしていたいただきたいというのが、思うところです。以上です。

(南先生) ありがとうございます。住民の方が色々な活動をする中で話し合いができる、集まれる場所が必要だというのは共通しているのかなと思います。そういった地域の方々の話を受けて、町長からお願いします。

(町長) 先ほどそれぞれ椋本さん、杉本さん、塚本さんからもお話しいただきましたように、利用者の願いというのは皆、それぞれ感じていただいているところです。

私も行政を預かる立場で、やはり広陵町の財政全体をどうしても考えますので公民館を普段利用していただいている方からすれば、非常に冷たい町長だというふうに思われているかもしれません。

しかし行政施策というのはあらゆる分野についてお金を必要としますので、これを長期的に最低やはり、5年先を見据えてやらなければなりませんし、もう少し長く10年ぐらいの財政計画を持って見通しを立てていかなければならないというふうに思います。

また、国の政策もどんどん変わってきておりますので昔はどんどん建てなさいという補助金政策が打ち出されていたのが、今はそういった補助メニューというのは非常に少なく公共施設に関してはほとんどないと言ってもいいというふうに思います。自ら

企画をして、国で借金を認めてもらってそれを地方交付税に算入をして間接的にそれで補助金を受けることになるわけですが、やはり今の国の政策は公共施設が人口減少に耐えられないということで複合化を進め、また、災害対策、防災についての財源を有しているというような状況でもございます。

最終的には、やはりこの広陵町の一般財源を借金しましても、地方交付税で算入されたとしても、みんな国民の負担ですので、そこをしっかりと皆さん方に理解をしていただきたいと思うわけですがなかなかそこらあたりは溝があるといえますか、距離があるというふうなことを常に感じておりますので、私もお金があり余ってれば、本当にできることをすべきことだというふうに思います。

こういった中で、効率的な施設整備をさせていただいて、今日提案させていただいている内容で、私は6月30日で任期満了で退任をさせていただきますが、次の町政を担っていただく町長にしっかりと引き継ぎをさせていただきたいなというふうに思います。

ただ第1ステップと第2ステップがございしますが、第2ステップについては確定的なものではございません。これから慎重に第2ステップについてどう進めていくかっていうところをしっかりとまた議論をお願いしたいなというふうに思っております。

(南先生) ありがとうございます。

町長の立場からするとお金のかかることばかりで、ちょっと冷たい町長という悩ましい行政の立場や公共施設が永遠の課題になるということがわかったということでディスカッションを終わらせていただきます。皆様、ありがとうございました。

それでは、次第5 質疑応答に移らせていただきます。

準備をいたします間、しばらくお待ちください。

お待ちいただいております間に再度質疑応答の方法についてご説明いたします。

質疑の方法ですが、挙手いただきまして、私が指名した方に、職員がマイクをお持ちいたしますので、その後マイクを通してご発言ください。

または、QRコードをスマートフォン等で読み込んでいただいて、入力フォームに質問

事項を入力・送信してください。QRコードから送信された質問事項につきましては、舞台スクリーンに投影いたします。

また、先ほども申し上げましたが、可能な限り多くの方からご意見を頂戴したいところではございますが、公務の都合上、大変申し訳ございませんが、一旦質疑を終了とさせていただきます。その際につきましては、QRコードから入力送信いただくか、アンケートに記載いただきたく存じます。質疑の説明につきましては以上となっております。

それでは、お待たせいたしました。

ご質問のある方は挙手いただくか、QRコードから質問事項を入力・送信くださいますようお願いいたします。

（質問者1）はい、ありがとうございます。私は、公民館建て替え要望する会の事務局をやっております。先ほどご紹介ありましたこれのきっかけになった1万人署名を集めまして、8年前、今から見ますとずいぶん長い年月ですけれども皆さんと一緒に頑張っておりました。お話聞いててね、南先生のお話は、まず財政問題で、皆さんもおっしゃってる町長、担当部局の方も財政問題どうすんねん、これが一番のキーワードかと思うんです。そういう意味では、それは大変本当に大切なことなんですね。

ただ、これまでの経緯で言いますとね、8年かかってやって、それから町長が2019年に公民館建て替えますというふうに議会でおっしゃった。その後町長は3期目のね、前のときに私の在任中に建て替えの目途をつけるとおっしゃいましたが、今進められているのは東洋大PPPの考え方なんですよ。これははっきり申し上げて南先生からもありましたけれども、機能を残せば、つまり施設がなくなっても、どっか改修して利用すればそれでいいんじゃないですか、こういう考え方でずっとこの間、2年前からやられてるわけですね。そういう意味で言うとね、今の町のやることがね、非常に矛盾する部分があるんですよ。

一方で今建て替えとかいろんな運動を進めてきて、検討委員会も出しました。

いろんなどこに建てるか、あるいは財政問題含めてね、その検討する必要な機会を設けてくださいと言いながら、これがずっと先ほど申し上げた東洋大の方に移っていった。東洋大の方は、公民館建て替えなくても機能を分散すればそういう意見なんで

す。

先ほど矛盾すると言いましたけれどもね、今、町がね、2年前にそうですね文化芸術の推進審議会、これあの先ほど発言なされましたけれども、この方が副委員長なんです。委員長は中川幾郎先生。この方は、あの、広陵町の公民館建替及び文化芸術の振興のあり方検討委員会とかね、あるいは自治基本条例の先生委員長でもあります。この方のね、考え方というのはね、やっぱり公民館大切なんですよ。社会教育の拠点施設ですよ。文化芸術のね、本当に大きく発展させるためのね、これの拠点施設であるとおっしゃってるわけです。そうするとね、今、町が進めてる東洋大 PPP にね、今 1,170 万かけて答申でました。今度は、去年の補正予算で 1,700 万でこれも東洋大学。はしお元気村とか改修の方向でいくと。これと矛盾することがね。一方で皆さんの、町民の参画を得てね、文化芸術の推進の審議をされる。これどっちがほんまですか。

これはね、大切なことなんです。本当に町は文化芸術の推進を大切に思うのであればね、そういう方向で考え方を整理していかないと、一方で、いやいいんですよと、いや文化芸術は貸し部屋じゃないですか、ということになってきてね、はしお元気村を改修する。あるいは他を改修するということがあります。

これ一点、もう一点すいません。また、すいません、思い出したらすいません。

とりあえずね、その矛盾するところ辺をね、きちっとね、今町長にお伺いしたいと思うんですけどこれどちらなんですか。

つまり建替えの方向を大切にしたい、やっぱり施設は大切なんですよという方向でいくのかね、いうことをきちっと矛盾するどちらの考え方がね、はっきりしてほしいんです。そういうことで、とりあえず回答をお願いしたいと思います。

(町長) ご質問ありがとうございます。

文化芸術の推進審議会で議論していただいていることと、公民館建て替えの話は、全く矛盾していないというふうに思います。

公民館があって、町は主体的に、文化芸術の推進政策を今まで十分とっていなかったという反省もしているわけでございます。

大体が公民館の貸し館になってしまってるということで、町が主体的に生涯教育社会教育を進めていないということが原点にあって、1万人署名を集めていただいたこと

がきっかけにはなりました。そのために、文化芸術推進審議会を立ち上げさせていただいて公民館の建て替えの議論も含めてしていただくということで、議会に条例を提案させていただいて進めたわけでございます。

しかし、議会の方で指摘がありまして、建て替えが先で文化芸術の推進は後だといういわゆる題名だけの話でしたけど、中身は共通してると、意見は合ってると思いますので、審議会条例も成立して、この文化芸術推進審議会で答申をいただいて、それを機に今後の公民館のあり方を進め、計画していこうということで様々な手続をとって、今日集約として、方向として、皆さんに説明をさせていただいております。

私が公民館を建て替えますというのはここで、現地で全て除却して、このままこの場所に建てるという意味ではなしに、新しく複合化した上で、公民館機能を持った施設を建てていこうという考え方で申し上げております。

（質問者1）よろしいですか。町長おっしゃったね、町の考え方というのはね、これ去年の5月の31日に議会に出された中央公民館再整備基本方針なんです。

ここにはおっしゃった複合化っていうのは一つも出てこないんですよ。これね、言葉をその都度ね、便利に使われると本当に問題だと思うんですよ。ここには庁舎、第3案ですね、建て替えが第1案、第2案が大改修、第3案が第1ステップ、はしお元気村の改修します。第2ステップは庁舎も含めて考えていきますとなっている。この中には、庁舎は新設するというのは入っているが、公民館複合化っていうのは一つも出てこない。だからねそれはね、本当にそうであれば、もっと以前からね、2022年の2月にね、答申を受け、建て替えに向けて必要な適切な期間を設けてください。

それをこういうふうになってるのにほったらかしといてね。それでPPPに1,170万使ったり、委託して町の考え方つまり、南先生おっしゃった、そういう意味で言うたら、基本の論議がどこにもできてない。そうでしょ。

皆さんこれどっかでそういう論議されましたか？されてないと思いますよ。

突然こういう方針出てね、なおかつ違った形でまた、出てきておると、これはちょっとね言葉の誤魔化しではね済まされないと思う。はっきりしてください。

（町長）このことは（質問者1）さんが何度も要望に来られたときも、私は当初から、やはり複合化するのがいいだろうと役場庁舎も古くなってきているということも含めて公民館機能を持たせた複合化施設をさわやかホールのグリーンパレスを含めて

ですね、そこでやろうということを申し上げてまいりました。

この今、今日の説明で複合化というのは全く議論されていないということでございますが、最終的に複合化をするのが第2ステップでございます。

そこに公民館の機能、はしお元気村に全て公民館機能を移すわけではございません。

今日も担当が説明しましたように、不足する部分についてはグリーンパレスで補おう、その他の施設でも機能を担っていただき、最終的にグリーンパレスを10年後を目途に庁舎とグリーンパレスと中央公民館の機能を併せ持った施設を作っていくこと、メインはやはり最終的にそのさわやかホールとグリーンパレス、そこに庁舎と中央公民館の機能を持った拠点をそちらに作ろうという提案です。ただ、まだ青写真ができておりません。これから進めるのは、はしお元気村の整備をして中央公民館の機能を移転するのと、一応そこで不足する分をグリーンパレスの一部を改修整備して機能移転しようと担当とも相談し議論をする中で、グリーンパレスの整備にお金をかけすぎると、もうそこでお茶を濁すということになってしまうのではないかと、担当にも申し上げておりますので、最終形は庁舎と中央公民館とグリーンパレスを合わせた施設、施設面積が増えるわけではございませんが、共用できるところは共有して、中央公民館機能はやはりさわやかホールやグリーンパレスに庁舎と合わせて持っていくというのが考え方でございます。

（質問者2）以前にね、広陵町の中央公民館がなくなるって知ってますかっていう新聞の折り込みか、それか、ポストに入れてくださったかわかんないんですけど、私は今広陵町に住んで48年になります。ものすごく利用しました。公民館、中央公民館それも無料で本当にお花教室もあったり、韓国語講座もあったり、パッチワーク講座もあったり、もうなにせただでやってくさるんで講座に私は参加して、それからパッチワーククラブなんかは、クラブ編成して先生にお月謝を払って、今でもパッチワーククラブは続いてますが私はちょっと理由があってやめたんですけど、そういうので以前は公民館は本当に町の援助があって、ただ受けられました。

だけどなんか、急にどこからか知らないんですけど、それがなくなりつつありました。私さわやかホールで栄養教室を3年間入りました。その年は、18人ぐらいいらっしゃいまして、私が入った年は4人でしたけど、3年経ったときに、もう自主運営してください。講師さんが3人いらっしゃいました。栄養士さんとか。その3人分のお金を払ってください。授業料にしてくださいって言われたから、3年でもう結局潰れ

ました。さわやかホールの栄養教室って皆さんご存じですか。ものすごいんですよ。家にあるような電子レンジじゃないですよ。ものすごい電子レンジです。乾燥機もすごいんですよ。設備がものすごいんです。だからね、さわやかホールを建てた時のね、今はもう町長ないんですよ。2階の調理室なくなってるんじゃないですか。こどもの何かが変わってますよね。後ね、グリーンパレスの調理室も1回使わせてもらいました。グリーンパレスも調理室あるんです。中央公民館にもあります。私はボランティアで入って、年1回の老人の方にお赤飯を配る。敬老の日に赤飯を配ることもしました。一番汚かったのは中央公民館の台所です。調理室です。だからね、本当ね、さわやかホールを建てた時のね、その凄さ、金額の張った、ものすごい最高級の調理室っていうのが、もし今ここで中央公民館を建てた場合はね、本当最高っていうのはできると思うんです。今の時代。そしたらどんだけお金が要ると思います。すごいお金だと思います。私はね、はっきり言ってね、はしお元気村も使いました。いっぱい使いました。パソコン教室もありました。お風呂も入ってました。もちろん子育て支援のボランティアもしました。行かれたことありますか。元気村。昔はレストランありました。本当に良かったんですよ。めちゃくちゃ昔よかったですけど、もう今お風呂もありません。お風呂の所の運動施設もないと思います。だけどね、すごく施設はよくなってね、大きなところで本当にホールみたいなところで、今一生懸命ね、なんかズンバとか運動を女の方がされてたんです。

すごい活発だなと思うんだけど、本当にね利用の価値が、お風呂場のところとか、お風呂場の後ろにある畳の部屋もありましたかね。勿体なくて勿体なくて、今思ったら。だから、元気村をもっともっと活用してもらって、本当は、中央公民館を建てるのは最高のものが建てられたら、どんだけお金が要るかということを考えて、昔のように、高齢化です。私はもう71ですけども、公民館の活動には参加してません。

もう高齢化したら参加できなくなるんです。だんだん。だからね若い子たち、子供たちが利用できる公民館というのをもっとね、場所を変えて、さわやかホールでもグリーンパレスでも元気村でも設けてくだされば、今からの子供たち若者たちが利用できるのか考えてくだされば、私は中央公民館がなくなってもね、町を信用してね、これからの将来のために頑張っていたきたいと思います。以上です。

(町長) はい、ありがとうございます。答えはよろしいでしょうか？はい、ありがとうございます。

(質問者3) 広陵町民ではあるんですけども、もう全くの通りすがりというか、家にポ

스팅が何かでビラがあったので何こんなことがあるの？本当かとか思ってちょっと寄せていただきました。私は一応、広陵のホームページとか、議会だよりを一応目を通してはいるつもりなんですけど、なんかこんなことがされてるんだっていうのもあんまり知らない不勉強だったなっていうふうに思ったんですけど、そのビラに何か例えば、東洋大学の方に1,170万かなんか払って対応を提案してもらったりとか、あと何か日本管財に7億2000万円で業務委託し、施設の点検整備をした。頼んでるけど、なんか屋根が落ちちゃったことが書いてあって、これって本当なのか、そういうふうに疑問に思ったのでそれを聞きたいと思います。

あと、議会だよりとか広報みたいのにはずっと出てたのを私が見落としてたのかどうかっていうのちょっと知りたいのでお願いします。

(町長) ビラを出されているのは公民館建て替え要望される会から配布されてるビラだというふうに思います。

東洋大学に業務委託してるというのは、この公民館の建て替え要望の皆様方の要望を満たしながら、公共施設をどう整備していくかということを専門的知見からコンサルタントをお願いするというので東洋大学に直接指名をしてさせていただいているわけではなしに、コンサルタントの何社から提案いただいている中に東洋大学さんがいて、安価にご協力いただけるということでお願いをしております。

また日本管財の7億2000万円、これは5年間にわたって広陵町の小中学校も含めて全ての公共施設を日常管理をしていただく経費でございます。

例えば公民館の日常清掃とか、役場庁舎の清掃とか、はしお元気村の清掃、グリーンパレスの清掃といったことも含めて日常の小さな修理をやっていただくために、役場職員がそれぞれ施設ごとに発注をして清掃業務を委託したり、修理が必要になったときはその施設の担当者が常に見積もりを取って設計をして、違う部署の専門職に設計を依頼して入札をしてもらってということで非常に時間がかかるということで、速やかに修理をして施設をいかに長寿命化を図るかということで、これもPPP方式で実施をするということで業者を公募して、日本管財が有利に取っていただけるということで日本管財になりました。

7億2000万円を新たに払ったわけではなしに、元々やってることを日本管財がまとめて受けてくれて、さわやかホールの中に事務所を構えて常にそこで施設からここが傷んでるので頼むということと、また日常のパトロールもしていただいて、気の付くと

ころはやっていただくということでございます。

中央公民館の壁が剥落したというのも事実です。日本管財に委託しているのにもかかわらず、なぜ剥落したんだと議会からもお叱りをいただいておりますが、これは予見できなかったということで管理者の責任にはなるかと思っておりますが、そういった事実があったことは確かでございます。

また議会だよりの方にはこういったことが全て載っているかと言いますと、100%載っているとは思いません。町のホームページにも全て掲載できているかどうかというところは、細かく私調べないとわからないので正確にお答えできず申し訳ございませんが、議会だよりやホームページについて、今後とも充実させるよう私からもお願いしてまいりたいと思っております。

（藤井部長）失礼いたします。企画総務部長の藤井と申します。

先ほど町民の方への周知ということでホームページとかに載ってるのかということでございますけども、今回のこの公民館の再整備基本方針の案につきましては、その都度ホームページに載せております。昨年も11月の9日にこういう形で説明会をさせていただきましたけども、そのときの議事録やそのときの資料もですね、ホームページの方には掲載しておりますので、目を通していただければと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

（質問者4）前回の説明会が11月の9日にあって、そのときには次いつにするんですかっていうお話させてもらおうと思うんですが、こんだけ間が空いたことについて端的にお答えください。

（藤井部長）ご質問ありがとうございます。

前回11月9日に説明会をさせていただきました、それ以降に複数回の機会を持って町民の皆様の方に説明をさせていただくということは、私の方からもそのときお伝えさせていただきました。

こういう形で11月9日から今回4月6日で5か月ほどかかったわけでございますけども今回説明会を開くまでに、PPPのPFIアドバイザー業務という業務的なものも進めていかなければならない、ということもございまして、有利な補助金の活用、そういったことを踏まえて、国とか内閣府との折衝を行ってございました。そういったことが理由ということになります。以上でございます。

(質問者4) そしたら11月9日は、説明会というふうに言われましたがそのときは利用者向けだけの説明会で一般住民に対して、認知されてないので今回を1回目という数えられる住民もおられるわけですね。

住民の周知徹底をしてないシンポジウムっていうか説明会っていうのを1回と数えるべきなんですか数えないべきなんですか。そのあたり南先生はどのようにお考えなんですか？普通に一般に考えてやり方は、ちょっと役場のやり方がちょっとおかしいというか、人間平等に扱うべきであるということと同時に、この時間がかかって5か月もかかりすぎたんでこういうことがちょっと違和感を感じるんですが、いかがでしょうか。

(南先生) ご質問の趣旨で言うと二つですかね。一つは住民への説明会のあり方の問題と二つ目は時間がかかりすぎていること。

(質問者4) 連動して喋ったつもりですが、時間がかかりすぎてからどうかということより住民への説明の仕方の方に重きを置いています。

(南先生) 住民への説明の仕方は様々ありますが、もちろんやらないところもあります。でも、やるとこはいつ説明をするのかっていうそのタイミングの取り方って非常に難しいです。

例えば、全くの白紙状態のときに広陵町で言うと全部の施設どうしましょうかっていうようなことを投げかけても、そのときに議論されてもそれが全部反映できない。ていうことは、全部ある程度議論を詰めた中で、その方向性で住民への説明会をするというのが基本的な流れですね。

ですから、そのタイミングの取り方っていうのは、それぞれ自治体の行政の担当者として、どこまで煮詰まっているのか。要するに煮詰まっていない段階で説明してもいろんな意見が出てきてしまってかえってまとまらなくなってしまうので、ある一定の方向性でこういったことがありますよ。これは、要するに役所において施設や財政の問題をずっと考えている、これは役所の人間の仕事ですから。それで、ある程度の方向性が出たときに説明をする。ただ、説明するときには方向性の議論をする場合ともう事業としてある程度具体的なプランが固まったときに説明するかで対象とやり方が違ってくるので、そのへんはどういう進め方をするのかっていうのは、自治体の考え方による。ですから時間の問題っていうのは、複雑なものは、より時間が長くかかってしまう、単純なものは短いというようなことがあるので、必ずしもその時間が何か月がい

いのか、何時間がいいのかっていう議論は一概にはできないと思います。しかも、プランもいろんなものがあるときには、全体的な説明を最初にしてしまうとかえって混乱するので、ある程度まとめるためには時間がかかるし、まとまったときには選択肢が示されるというのが通例のパターンだと思います。

（質問者4）ありがとうございます。ただ6月末までに役場を複合施設とするかしないかの方針を出すって言われたことにおいて、そのスピード感が逆算すれば難しいかなと、もっと早めに開催して一般の住民の方のみでされるケースもあってもよかったのかなと思います。

（南先生）それは私の最初の話のときに申し上げましたが、例えばある自治体では、学校の全部の施設の建替というか長寿命化の計画を立ててしまう。予算を組んでやろうと思ったら、急に人件費とか資材費が上がって、そのまま計画をやると完全に財政破綻することになるので、もう1回見直すということがありまして、今例えばもう、先週はトランプがとんでもないことを言うというようなことによって、全部今世界中がとんでもない話になる。というようなことも、実は6月に予定していたけども、そんなようなことがあったらちょっと6月にできなくなっちゃいますよね。例えばです。あの行政ってのは税金で成り立っている仕事なので、先の読み方が非常に難しい。

（質問者4）今6月に結論はしないっていうことで町長よろしいでしょうか？

（町長）私が責任を持てるのが6月30日まで、町長として在任中に決定する事項については私が責任持てるのはそこまででございます。

また、新たに町長選挙が行われて町長が決まりますので7月1日からは新しい町長に担っていただきますが、ただ今までやってきたことの流れはしっかり説明をして引き継ぎをさせていただきます。

その後、町民の皆さんの声を聞いていただきます。今はプランニングの段階です。プランニングも今東洋大学の方で色々検討していただいております。

はしお元気村も民間の事業者に、一部施設を活用していただいて、はしお元気村の維持管理費をいかに安くあげるかという提案をしてくれる企業、事業所が出てくるのかどうかということも、まだ確定はしておりませんので今後もしっかりと検討していただいて、まとまった状態の中でまた情報としてお知らせをする。また、皆さんにご意見をお伺いしなければいけないときは、その情報がまとまった段階でまたこのよう

な催しをさせていただくということになりますので6月30日までに全て結論が出るというものではございません。以上です。

(質問者4) ありがとうございます。あとそれと、複合化についてなんですけれども、例えば、今、広陵町の庁舎と公民館機能を複合化するように検討されてますけれども、例えば体育館と公民館の複合化等、地震が起こったりとか、そういうときの避難するシステムにするとか、そういうふうな幅広く、もう検討された結果なんですか？メリットとデメリットをもちろんいろいろあると思うんですがいかがでしょうか。

(藤井部長) まずもうおっしゃっているように例えば体育館でやるというような考え方がございますけれども、体育館につきましても各校区の方にミニ体育館というのがございます。もうそのミニ体育館も、老朽化していておりますので、あと、老朽化してる中で各小学校もありますので、この小学校の体育館とどのように今後利用していくのか、そういったことの検討は、やっぱりしていかなければならないと思っておりますので、例えば老朽化しているミニ体育館をもうみんな取り壊して、学校の体育館の方を一般の利用者の方に利用していただくとなると、普段はやっぱり児童さんや学生さんとか児童さん、子供さんが使われると思いますけれどもやはり授業がなくなった後はやはりそのスペースはフリーになるわけがございますので、そういった形での検討というのはしてしております。

ただあとは防災機能につきましても、複合化において、もちろんそういう機能を持たせる、防災の拠点とする。そういった考えは持っております。以上でございます。

(質問者4) すいません。私は中央体育館との複合化を言っています。中央体育館と中央公民館の複合化、その方法で考えれば、例えば何部屋か中央体育館にあればですね、避難所の際に、例えば子供らが赤ちゃんとか、そういうときのオムツ替えてやるとか、身体障がい者のいろいろなことの作業に使えるとか、あと炊き出しとかの部屋に使うとか、いろいろできるんじゃないかなという意味で、そういう検討されたのかどうかを聞きたい。

(町長) その検討はしておりません。中央体育館は中央体育館の機能がありますので、ちょっと話がほかについてしまいますので、また他の方もまだご質問あるようですのでここで終わっていただけたらと思います。

(質問者4) ありがとうございます。ただ同じ時期に建てられてるんでそう言うただ

けなんです。

（町長）中央体育館は新しいです。昭和 55 年に建てられていますので、中央公民館は 48 年ですので年代が違います。それでも老朽化してきているのは間違いないので中央体育館もいずれ建て替えをする、しなければならぬ時期が来ると思いますのでそれは広陵町にある公共施設全ての総合管理計画の中で表現しておりますので、今後皆さんと議論をしていく必要があるというふうに思います。今日は中央公民館をどうするかということで議論をお願いしたいと思いますのでよろしくお願いします。

（質問者 4）わかりました。

（司会）他にご質問ある方はいらっしゃいますか。

（質問者 5）公民館の機能についてなんですが、本来の公民館としての機能を今や失って、ただ貸し館、貸し部屋化しているために、複合化するときに、ただ部屋があればいいというふうな答弁をされたように、私は町長さんがそういうふうに答弁されたようにお聞きしたように思うんですけども、本来の生涯教育を担うという意味の公民館機能、それから、将来的にどういう場所が必要かっていう質問に、先ほど発表された方ですが、みんなが集えるとか、カフェがあったらいいなあとか、それはみんなが集まって気安いと思うが、私は、少数の方にしか、あんまり支持されない部分もあるとしても、公民館の役割はその生涯教育ということや、ある種、啓蒙していくというような、そういう機能があるべきところと思っているので今回の話では町長さんはそういう部分をもう捨てるというふうに思われているのかなということと、それから先ほどは公民館の運営の仕方を失敗したようなそういうふうにおっしゃったように私は聞いたのですけれども、そうすると運営するのは利用者側の私達ではなくて、運営している広陵町側でその職員の方ですので、その方たちのやり方が悪かったということでしょうか。そして私もちょっと感じることは、ホールを使った講演会は非常に素晴らしい講演会だなと思って来させてもらったら、ほんとにぱらぱらとしか客席にいらっしゃなくて、素晴らしい講演だったんですけど、職員の方が、よかったなって、よかったよね、みたいな感じでおっしゃったので、事前に良かったっていうことをちゃんと調査してその方呼んで、広陵町の皆さんに聞いてもらいたいと思って開かれたのではなかったのかなと思って残念に思ったことがあったんで、なんていうか情報発信が公民館側ができていいのかと感じた。そういう啓蒙の生涯教育や啓蒙するという、そういう部分を町長さんはもう捨ててしまうと思っておられるのかという質問。それから私前回の説明会の際にお願いしたことがありまして、先生がおっしゃ

った学校は普段1年間を通して2割ぐらいの利用率でその他使ってないんだからいろんなことに使えばいいっておっしゃったことについて、前回の説明会では学校の周辺では、うちはもう横に家があって、ネット張ってないのでそこで野球するもんやからボールが飛んでくるんだよとか、壁に当たるんだよとか、車に当たったりしてるんだよっていうお話したんですね。空いてるから使えばいいってということではなくって、ちゃんとそれ用の機能を持ったところ、それをできる機能を持ったところでやってもらわないと困るという話をしました。

そして、いろんな部屋が空いてるから、音楽室、調理室、体育館を使えばいいということをおっしゃいましたけど、学校のない日は静かになって、もうほっとしたわかって思うんです。学校あるだけで神経が高ぶるといふかそういうことがございますので、一概にそれいいと言えるかっていうことを私は前に言ったつもりなんですけど、それがいいよって偉い先生がおっしゃったらそれがいいことになってしまいます。

それから、落語の方ですけども、このホールはいいよって言っていただいて、私もホールを絶対に残してほしいという思いがあるんですけども、それはマイクを使って落語をされたのかなっていう一つ疑問がありまして、私達はコーラスをやっていて、クラシック音楽というか、そういうのをするときにはマイクを使わずにホールの音響を頼りに演奏しますので、ホールがあることはありがたいですけど、ホールを小さいものでも作っていただければ、ぜひ作っていただきたいんですけど、そういうことを配慮して、ただの多目的ホールで、舞台があって客席があればいいっていうのはちょっと困るなと、この最後の図にありますように、これですと舞台はありますけどもアンプを使って音を増量してますよね。これはもうクラシック音楽ではありえないので、これではちょっと困るなという風を感じておりますが、その辺はどうお考えかなといくつか質問させていただきましたけどもお願いします。

(町長)生涯学習を捨てたわけではございません。私の説明が悪かったと思います。生涯教育を主体的にできていないというところと状態の反省に立った上で、町公民館の整備、建て替え要望の審議会、社会教育の推進審議会を立ち上げた目的はそれで、まず町が主体的に生涯教育をどのように進めていくべきかというところを、諮問をさせていただき、それに合わせて公民館建て替えについても議論をしていただくということで立ち上げたもので、順番が逆ですので私の説明が悪かったかと思えます。

やはり行政が主体的に生涯教育について力を入れていかなければならないという反省に立った上で、今の中央公民館が貸し館中心になってしまってるということもやはり

見直さなければならぬ。

貸し館というのは利用していただく方の利便性、これを確保するのも町の役目ですので合わせて考えていくべきということで今日説明をさせていただいているわけでございます。あと、音楽ホールについては、音楽を演奏されてる方にいろいろなご要望も聞いておりました。このかぐや姫ホールは、音楽ホールの体をなしていないということで聞いてございます。

ただ、はしお元気村で整備する小さなホールについては、今の多目的ホールを音楽ホールに使えるように何らかの整備を担当の方にするようにという指示はさせていただいております。収容人数は少ないとは思いますが、音楽に適したホール、防音機能も持ったホールで、どういう設備ができるのかということと専門的な音楽ホールにはなかなかそれが難しいのではないかと私素人ではわかりませんのでいろんな方にお伺いをして、設計段階でどのような整理をするか皆さんの声を聞きながら進めていきたいなと思います。

いかんせんお金の話ばかりしますけども、予算の都合もございましてそのあたりの兼ね合いを見ながらやらせていただきたいなと思います。私からは以上です。

(南先生) 私への質問で学校の開放のことだと思うんですけど、ボールが飛んできたりするさといってこれは論外でありまして、学校開放する以上は、それなりの対応をせざるを得ない。学校にそんなまたネットを張ったりだとか、防音するとまた金がかかるんじゃないかっていう声もありますが、音楽室でも校庭でも空いてる時間が長いので、そこにネットを張ったり、あるいは音楽室の防音を整備する方が、よほどお金がかからないです。独立の建物にする、野球場、サッカー場を作るとなると大変なお金がかかりますが、空いてる場所を使うということであれば、さほどお金はかかりません。もちろんご迷惑はかかっちゃいけないので予防をしなければならぬ。これは鉄則ですね。学校開放の。

(司会) QRコードからもですねご質問多数いただいておりますのでそちらの質問にもお答えいたしますので順次ご回答をさせていただきます。お越しの方からのQRコードの質問ですので先にこちらの方に行っていただいてまたこれ終わりましたら、ご質問お答えしますのでお待ちください。

(藤井部長) はい失礼いたします。

まず、公共施設全般の話となっているが公民館をどうするか以前の問題で、町が公民

館の方針を決定しておいて、公共施設の説明を後付けするのは順番が逆ではないか。自治基本条例の住民の意見を聞くことが先ではないかというご質問でございます。

今回、公民館の再整備基本方針というのを立てました。その中で住民の方々にアンケートであるとか、ワークショップを実施しておりますので、その中でこういう形で住民さんのご意見っていうのはですね、聞いているということは、こういう形でも実施しておりますので住民の意見は反映できているものと認識しております。

続きまして、2番の質問でございます公民館再整備スケジュールについて令和9年度時点で、公民館条例上の公民館はどちらになりますかというご質問でございますけれども、今これは現在検討中でございます。

はしお元気村の改修はさせていただきまして今後ですねグリーンパレスの方も改修させていただいて公民館機能を移すわけでございますけれども条例上法制上の関係もございまして、それはちょっと検討中ということでお答えさせていただきたいと思っております。

続きましての質問でございます。建て替えを前提に議論が進められてきたが2023年の基礎調査報告では、改修と公民館機能の集約が推奨され、建て替えという表現が使われなくなった。この方針転換についてなぜ建て替えが避けられたのか。また、方向転換に至った経緯を正直にご説明くださいということでございます。

令和4年度、5年度で、そういう形で基礎調査で基本方針の策定というのを行いました。その中で一案としてですね現地建て替え案を踏まえて検討はしておりましたけれども第3案の集約再編を選択したのは先ほども言いましたように、アンケートであるとか、ワークショップにより、それによって検討したところでございます。そういう形で回答させていただきます。

続きまして、ステップ1は既に着工しており住民の声が反映されませんでした。ステップ2では、基本計画策定前の今こそ、意見交換を始めるべきです。さわやかホール3階にある福祉センターが公民館諸室の対象となっている辺りの扱いも含め、情報公開と住民との対話をどのように進めていくのかを答えて教えてくださいということでございます。

今現在第3案第1ステップではしお元気村の大改修というのを行いましてですね、今後第2ステップの方で、複合化し、複合化後の施設の検討をしてみたいです。その中で住民さんの意見をですね、より良いものとするため聴取していこうと思っております。

すのでどうぞそのときはよろしくお願ひしたいと思っております。あと、さわやかホール3階にある福祉センターにつきましても、目的がもう福祉センターとなっておりますので、その辺あたりは条例の緩和というのは必要となってきますので、今後その条例の見直しというのにも必要となっているくるというふうに認識しております。

続きまして、公共施設は少子高齢化に伴う人口減少を考えると、新しくつくるより既存のものを使うという総務省指針はそのとおりだったと思いますが、計画や方針には町民の意見聴取が十分になされた上で、少なからず反映されることが大事だと思ひます。意見聴取の方法の具体案は持っていらっしゃいますかということでございます。

これにつきましてもですね今後十分にですね、検討の場を設ける予定としておりますのでどうぞよろしくお願ひいたします。

続きまして、基礎調査基本方針を拝読していると、策定される段階で、現地訪問しての調査だったのか、と疑問に思っております。実際はどうでしたかということでの質問でございます。

この基礎調査基本方針につきましてもですね、十分そのときには現地調査を実施しておりますので、その中で基礎調査基本方針というのを定めておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

(司会) 続きまして、まだ他にご質問ある方は挙手の方をお願ひいたします。

(質問者5) ちょっと一言お聞きしたいんですけども、南先生がおっしゃってる理論的にですね、財政的にということはおっしゃってることはよく理解できます。

だけど、人間が生きて行く上で、それでいいんでしょうか。例えば、ボルトナット。遊びがなきゃいかんということでご存じやと思ひます。先生やったらそういう理屈は十分にご存知だと思ひますけども、人間も生活していくところで、無駄、俗に無駄っていうことが必要ではないでしょうか。そのための一つのルールとして、中央公民館があつて、先生がおっしゃれば、町長さんがおっしゃることが無駄かもわかりません。だけど、人間が生活していくことにおいて、無駄も必要じゃないでしょうか。潤いのある生活をして初めて人間らしく生きられるんじゃないでしょうか。どうなんでしょう。そういうところをちょっと考えてですね、中央公民館というのはどういう施設であるのか、僕は必要だと思ひます。人間らしく生きていくためには、機械的にぎすぎすした世の中ではうまくいかないと思ひますけども。どうなんでしょう。そういう観点にならないんでしょうか、皆さん。おっしゃってることは。

先生達、町長は、財政的な面ばかりおっしゃってますけど、ちょっと他の面から、私が言ったような方法も考えられませんか。是非そういうことを考えてやっば町政運営をしていただきたいと思うんですよ。国もそうですけども、南先生おっしゃってます。理解はできます。私馬鹿じゃないから理解できると思うんですけども、だけど何べんも言いますけど、潤いがなきゃいけませんよね人間で。どうなんですか、先生どう思われますか。

(南先生) おっしゃることはわかるんですが、ただ、公民館は無駄だからその無駄も必要だから残せということと、例えば別の方は、体育館は無駄だからすぐ壊せ、必要だから残せと言ったり、あるいは学校も無駄なところもあるから、やっぱり残せ。あるいは役所だって本来無駄だろうあんなに役人がいるという方がいます。つまり無駄っていう考え方はそれぞれの立場で無駄があります。

無駄がなくなったら、この世の中成り立たないのは、もうおっしゃるとおりですよ
ね。

私はここに来るのも実は私にとっては無駄な時間だけど、専門的なことから、いろんなことでお話を聞いたり、議論するのは、それは無駄じゃないですよ。

だけど、そこをどういうふうに判断するかは、それぞれの人によってあるいは経験によって知識によって体験によっていろいろ変わって一概にそれは公民館が無駄だとは言えません。

私は公民館は別に無駄でも何でもなく、かつてはちゃんと機能してたし、地域の本当に大事な施設であったんですけど、やっぱり世の中が変わってきてしまったので、若干無駄な部分が出てきたのかもしれないんだけど、それはそれぞれの自治体の中でその無駄をどういう範囲で無駄と思うのか。

どこまでを容認するのか、あるいは新しい価値を作っちゃった方が、無駄を全部吸収できんじゃないかっていうようにいろんな考え方がある。

無駄が必要だっていうのはよくわかりますし、無駄が世の中溢れかえってるのもわかりますけれども広陵町の中央公民館を無駄だと言って切り捨てるのはとんでもないという意見には私は残念ながら同意ができません。

(質問者5) そしたらね、やっぱりそういう最初の発表意見も終わられたときにそういうことを付け加えていただきたいんですよ。今私が質問をさせていただいたときに

初めて、僕は無駄とは思わないんです余裕ですね。そういうこともやっぱり付け加えてね発言していただきたかったなと思います。以上です。

（南先生）それはぜひ最初から汲み取っていただきたいんです。私が全部無駄なことを無駄というふうに表現してたら、話が成り立たなくなるから、一つの合理的な流れの中で説明したわけで、私の存在そのものも何度も申し上げますけど、広陵町にとっては無駄かもしれない。だからこれはよく汲み取っていただかないと、最初から私の話は無駄ですって誰も聞かなくて帰ってしまいますね。

（質問者5）ちょっと私言ってるのは、人が生きていくにあたって、学校の問題、他にもいろいろあります。それはよく知ってます。分かります。馬鹿じゃないんだから。分かりますけれども、ただ人が人間が生きていくに当たって、そういう遊びというそういう、遊びというものがなきゃいかんじゃないですか。と言ってるわけです。

（南先生）その部分は全く同意です。

（質問者5）そしたら、例えば一つの例として中央公民館というものをもっと考えないかんのじゃないか。捨ててしまうんじゃない、ただ機能だけでやるんじゃない、それはやっぱりもうちょっと考えなきゃいけないんじゃないですか。先生おっしゃってるのは、いろいろ財政的に調査をして、機能でいいんじゃないですかとおっしゃってることは、私には少しくエスチョンマークが入る。私が最後ちょっと申し上げたいんですけども、行政の言ってることは正しいんだと、どうもそれが根幹にあると思います。それは何かっていうと、色々とデータとか色んなものを蓄積されておっしゃってるわけです。けども、国はそうかもわかりませんが、下へずっと自治体においてきて市町村も同じように、国と一緒にとか、僕はよく考えられないですよ。例えば、町長さんは、先ほどの説明の中でいろいろ建築的な違反がありましたけどと、おっしゃってましたけど、そういう一言でいいんですか。そういうことによって、ここの例えば町長がおっしゃった、改修するときに、それを全部、県は潰してやり直せと言うてるわけですよ。それには、2億も3億かかるっていうことあるわけです。それを無駄ですよ。お金の無駄の使い方ですね。僕言う無駄じゃないでしょ、余裕じゃないですよ。けどそのことに対して町は、お詫びされましたか。町民に対して。さらっと逃げられてます。建築基準法に則って申請しないといけないものをしてないですよ。行政が守らないかんこと守ってないですよ。そういうことをやって、行政を信用せえと言えますか、私はそれをねあれなんです。例えばさっき部長おっしゃったよう

に、いろいろワークショップとかやってやりました。一般的に説明されて知らない方は、ワークショップやりました。広陵町さんすごいですね。私の知ってる千葉県の千葉大学の先生が広陵町すごいですね。自治基本条例なんか見たら素晴らしいですよって言われるんです。素晴らしいですよ。書いてんのみたら。だからだけある僕は、役所の方に聞きました。あんなことやりがあって、なんでですねって先生に聞いたら、いや、あれは町民の力にやられすぎや、ああいうことをし過ぎるとその通りやると、行政が上手く立ち行きませんっておっしゃってました。あえて名前は言いませんけどね。元ここにいらっしゃった方です。だからやっぱり行政の考え方ってのはそういうところあるんじゃないかと思うんですよね。だからもっとね、やはり町民が使用できるようなことをやっていただきたい。そして始めて、町の言っていることに対して、我々も忌憚なく意見を出させていただけるとし、町とともにより良いまち作りできるんじゃないかと思うんですけどね。もうちょっと原点に立ち戻ってお金がないとか、借金を残すな言われますけど、何も飲み食いして借金するわけじゃないんですよ。建物の資産として残ってくるわけで、その資産を1回どういうふうにも有効利用するかということはこれからも考えないかのじゃないでしょうか。

それは借金が残るからっていうことはおっしゃってますけど、それは国と違ってね、地方自治体はお金刷ることはできませんから、それは確かにおっしゃってるのはよくわかりますけど、やっぱりそこらのところをもう少し行政としてやられると信じたい。町民の意見をよく聞いて、納得させて前に進めていただきたいのと、今回のシンポジウム説明会でも色々な計画の説明もおっしゃってますけども、最後はやっぱり町民が納得する説明をしていただいでですね、町民が少なくとも、半分くらいの町民が納得して、始めて前に進むんじゃないかと僕は思いますけどね。

そういう町政をしていただきたい。まず今まではそれを否定することはしませんけど、今まではそうやってなかったことだけは自覚していただきたいと僕は思います。以上です。

(町長) ありがとうございます。違反建築の状態を修正しないと新しいエレベーターをつけたりそういうことができないということでございます。それをお詫びしたかと言われると、私自身、皆さんの前でお詫びしたことはございませんが、正式に町としては、やはりしてはならないことをしてきたということについてはお詫びをしなければならぬと思います。

それを解決するにはお金をかけて、このかぐや姫ホールであれば、その隣の通路を

全部取っ払った上で、前のロビーもみんなやりかえると、それから中庭にある陶芸教室についても、あれも違反建築ですので、窓を防災対策、防火対策をしなければならない、相当なお金がかかる。また、多目的ホールも、後で火災が起きたときの保険金を使って増築されたそうですので、これもちゃんとした手続きが取れていないので、あの部分については除却せよと、全てそういう状態にしないと次の整備ができないという状況で、この公民館が耐用年数が経過しておりますので、投資すること自体が、長期的な計算をすると無駄になってしまうので、やはり建て替え、あるいは機能移転、多目的、いわゆる複合化の方に進まざるを得ないなというふうに思います。この中央公民館も相当年数が経過しておりますので、建て替えを求めているとおり、ここで、建て替えすれば一番いいとは思いますが、その機能も併せ持つて複合化に持っていく。いろんな施設も公民館利用ができるように提案をさせていただくということの方が最終的には無駄な投資にならないというように判断をしております。そのために良い案として説明をさせていただいているということをご理解いただきたいと思います。

公民館が無駄とは私は全く思っておりませんので、公民館そのものを、今度複合化する施設の看板についても、役場庁舎とするのか、そこに公民館の表示をどうするのかというところも、やはり皆さんの声をしっかり聞いて決めていかなければならないというふうに思います。

(司会) 大変申し訳ございません、それではそろそろお時間ですので、次で最後の質問とさせていただきます。

(質問者6) 広陵町の様々な公共施設が将来的にどうかということ町の方が検討されたところかと思えます。いろいろ提案され、ちょっと広陵町で一番大事なことは何か言うと、やっぱり私はちゃんと自分の頭で考えられる住民がどれほどたくさん住んでいることが、将来どんな状態になったとしても、私は一番大事なことはないかと思っています。

かつて国民が一つの考えに強制させられていって、戦争に向かっていった。そういう時代を超えて、そして社会教育や公民館ということが、本当に大事だということで戦後スタートしてきたと思っております。そしてこの公民館に対する思いというのは、今さまざまな方がいろいろ意見を言っていると思います。公民館機能と公民館というのと町のほうで考えている違いどこにあるのかお伺いする。

(倉田部長) 公民館といいますのは単なる貸し館ではなく、先ほどから皆さんおっしゃっておられますように、生涯学習の場であり、また市民を育成するためのものであると認識しております。現実としての今の公民館が老朽化してきておりますので、今中央公民館を一時的に移転といいますか今の公民館は使えませんので、一時的にその機能を他の施設に持っていかざるを得ないという状況であると認識しております。今後につきましては、整備をしてですね、役場庁舎と複合化することになるかもしれませんが、それでもそのおっしゃってるような公民館の機能・性質っていうのは残していかないといけないと思っております。

(質問者7) 最初に南先生が公民館の利用全国的に5%だっておっしゃったと思うんですが、広陵町においても30代40代は少ないと、確かに私も大阪に住んでおりました、仕事をしている時は、公民館っていうか、そういう施設を利用したのは子供の行事のとき数回だけです。ですが、仕事を辞めてからっていうのは本当に生涯教育ということでこの公民館をいろいろ利用しております。現在、子育て支援ということでも、親子で来られるお母さんたちと一緒に公民館を使わせてもらって、それから子供食堂なんかでもここ、公民館を使って今利用しております。そういう意味では子供さんたちもね、たくさん来られてるんです。3月5日でしたかねここで金明太鼓の講演があって私初めて金明太鼓を見ることができたんですが、すごい感動しました。午前の部に伺いましたけども満席で、小さい子供さんからお年寄りまで、午後の部もきつと満席やったと思うんですが、このホールがなくなるってすごいそのときにね町長も来られてたと思えますがどう感じてはるんかなこの光景を、と見ておりました。

私達公民館建て替えを要望するチャリティーで文化の集いというのを令和4年、令和5年と2回ホールで開催しまして公民館建て替えにちょっとでも使っただけならなということでもわずか41万5000円ですけれども、150億円のその予算の中からしたら、微々たる金額ですけれども町民の皆さんの熱い思いが詰まったお金を町長に寄付させていただきました。広報にも載っております。私も写真写ってるんですけども、このときが中央公民館建て替えの願いを集めてのご寄付をいただきました。中央公民館建て替え事業に使ってほしいという願いです。みたいなことをちゃんと広報にも書いていただいているんです。でも町長さんは、いや、私は元々だからこのときも建て替える気はなかったということですよ。私が裏切られたというか、どういうお気持ちで受け取られていたのかっていうことをどうしてもお聞きしたくて質問させていただきました。

(町長) 私個人にいただいたわけではございませんが、町に対してご寄付をいただいたことを感謝申し上げたいと思います。公民館建て替え要望をされる皆さん方がチャリティーコンサートをしていただいたということ、主催者がそういう意図で募金を集められたということで、その願いについては確かにそのとおりにお受けをさせていただいて、将来の公民館再整備に当たって活用させていただこうということで、基金に積み立てをさせていただいているわけでございます。気持ちとしては私は元々、これと言っていつも怒られるんですけど、元々この公民館を建て替えるとは言っておりません。皆さん方の願いを実現するために、再整備いわゆる大規模改修をして、綺麗にして快適に整備をして使っていただきたいということを申し上げてまいりましたが、それはまかりならんと建て替えるべきだということで、署名も集められて、話が進んできたわけでございます。この大規模改修をするというのを内部でも議論をさせていただきましたけれども、長い年数、スパンで考えると、その大規模改修に投じるお金を投じたとしても、この公民館の耐用年数というのは、やはり建物自体の問題がありますのでそんなに長くは使えないとすると、またいずれこの建物を建て替えなければならないということになると、トータルとしてかえて高くつくのではないかという計算上出てまいりますのでそれならば単独よりも複合化を進めた方がいいということで今、今日説明をさせていただいているわけでございます。ある施設も活用しながら、第2ステップに向けて皆さんと協議を進めていければというふうに思います。私自身は6月30日までしか任期がございませんのでその後のことについては、新しい体制で検討をしていただきたいなというふうに思います。その願いはちゃんと広報にも掲載させていただいておりますし、その考え方は私の後を担っていただく方にも伝え、伝わっていくと思いますし、私も伝える義務がありますのでそのようにさせていただきます。

(司会) それではこちらで質疑応答を終わらせていただきます。

本日ですね質問をまたあるという方もいらっしゃるかと思います。

冒頭でも申し上げましたけれども、質問がおありの方につきましては、QRコードで質問を入力いただくかもしくはアンケートの自由記載欄の方に記載の方をお願いいたします。

こちらで最終とさせていただきます。

(質問者8) まず始まった時間やな。今主催者何時やと思ってるねん。こんな不細工

なことに、始めから、こんなこういう時間がかかるのは分かってるやろ。司会してるのは町の職員か。

(司会者) そうです。

(質問者8) なんやこれ。ちょっとひどいやないか。もうちょっと考えないと。ほんで10時からできひんねんやったら、9時からやったらええねん。

(藤井部長) すみません。それにちょっとお答えさせていただきます。もうそれでちょっとやはりちょっと長くちょっと質疑応答の時間をちょっと取りたいと思った関係部分もございますので、そのあたりはちょっとご理解いただければと思っておりますのでどうぞよろしく申し上げます。

(質問者8) そんな質疑応答始まったのが11時半やで。ちょっとひどいで。この公民館建替運動だつて、建替検討委員会っていうのを作ってやな、2年間もやってきて答申で出て、ほんで建て替える気ないと、それやったら初めからするなと、我々町民を愚弄してんのかっていつも俺町長に言うけど。そんな建てる気は初めからなかったつて町長が俺言うんけど、この公民館を今度取り上げるんやろ、これ潰すんやろ。ここで私らは俺は第1回か、この発表会やってきて、簡単にそうやって取り上げて、先ほどここのホールでも残してほしいって言った人あったけど、そんなこと自分らの都合でやね、取り上げるっていうのは俺、なかなか、皆さんそれあれできるか。これもう潰すでって言われて、はいって言えますか。あまりにも勝手すぎです。町長。

検討委員会やって2年やってやな、またその答申出たのに、その答申に対して一つの答えやんと、また大学に頼んで、大学は何やってくれるんですか。私らがここで住んでこの広陵町を作ってきました。住み続けたいまち奈良県で今一番なつたいうて、ほんまか嘘か聞きますけどね。でもそれは私らが作ってるわけです。町の職員も。非常に公民館の職員でも熱心に一生懸命やってくれてますわ。あの町の職員も非常に優しくって、私はいつも感謝してます。

でも町長だけや、このもう今やめるとなつたら平気で、もうそんなんやらんでええと。今度はあれですわ。複合施設でもね、町長が口で言うて、今度はそれをもっと具体的に話でも進めてくれはつたんですか。口で言うてるだけですやろ。

(町長) 今から進めるということで、第2ステップにその分を入れて議論をしていきたい。

(質問者8) もう終わりですよ。

(町長) もちろんそうです。いつまでも私町長してるわけにはいきませんので。

(質問者8) ほんだらもっとね私らは運動してる時にもっとやったいいのに、もうもう何年なんねんや。こんな長い間、誤魔化しいうんか、その場しのぎみたいにやってね、非常にやっぱり、私ら町民を愚弄してる。

(町長)、必要な経費を計上して議会で議決をいただいて準備を進めておりますので、ご理解いただきたいと思います。議員さんにもいろんな思いがあります。100%ではないとは思いますが、やはり広陵町は議会の議決をいただいて事務を進めます。その背景にはやっぱり住民の皆さんの意見要望が入っているわけですので、これからも再整備についてしっかりと議論をお願いしたいと思います。私はもうこの6月30日で任期は満了しますので、退任はさせていただきますが、このことは引き続き広陵町として議論をお願いしたいと思います。

(質問者8) もうやめたらやれやれでしょう。

(町長) 冷たい町長で終わるといふ(質問者8)さんにとってはそうなるんだろうと思います。けれども広陵町は永遠に不滅でございますので、しっかりと後を引き継いでいただきたいなと思います。私も町民としては参加をさせていただきますのでよろしく願いいたします。

(質問者8) 取り上げるっていうのは私はもう納得できない。皆さんそれししっかり。

(町長) もちろんそうです複合化を進めるということでございます。

(質問者8) やめたら終わり。口で言うてるだけで、何の確約もないやんか。

(町長) 私が約束しても何の役にも立たんという意味のことをおっしゃってるんですね。ちゃんと引き継がさせていただきます。

(質問者8) それがやってくれるかどうかわからない。

(町長) やるかやらないかは、また町民の皆さんの声もしっかり聞かないとできないと思います。

(質問者8) 結局は何も役に立たないということや。

(町長) そう言われると、行政システムそのものを否定することになりますので、そんなことではないと。

(質問者8) いやもっと、はよそれやったら、そんな検討委員会とかやらんと始めから、複合施設って言うてくれたらええのに、何も言わんと引き延ばしただけや。

(町長) 議論を進めるにはやはり時間がかかりますし、財源をどこに見つけるかというのも我々の仕事ですので、時間がかかるのは当然だと思います。

(質問者8) 財源財源。それと教育長、孫の代まで借金残すな、なんてかっこよく言うたらあかん。施設を残してその子供たちを育てやんな。ほんで、国が国家予算の10年も借金してるのはこれどれうなのかな。

(町長) 国と地方は違います。

(質問者8) 違う言うたかて、広陵町が住み続けたいまちやうて言うてくれたてはるの、どこをみな考えてるのか。教育長、借金を残すななんてええ格好ばかり言わんといてくれ。

(町長) 住み続けたい街は、大東建託さんっていう会社が発表されてるので、我々が作ったデータではございません。住んでおられる方の意見を聞いて、アンケート調査に答えておられるということでございます。

(質問者8) やっぱり広陵町に来たいっていう、齊音寺地区なんか家何件建っているのか、すごい数。やっぱり広陵町に住みたいらしいですよ。高田住むよりか、御所住むよりか広陵町がええと来てくれている。嬉しいこと。それに応えてやってほしい。学校の関係ないけど、校区替えもしっかりしてもらわないと教育長、それは子供たちがかわいそうです。以上でございます。

(教育長) まず私は将来の子供たちを育てるためには何が必要か、その中では、そりゃ将来の子供に借金を残すななんて、ええ格好言うてるかもしれません。これは大事なことです。子供たちの将来を一番私達は考えていかなきゃならないんです。その辺を今の状況の中ではね、やはり借金なんか残しては駄目だと私は思ってますし、もう一つは、校区の再編についてもずっと検討してます。だからそこはまだ十分進めていない部分がございますけれども、第一に子供たちのためにはどうあるべきか、常にみんなで話をしています。なんとか、広陵町の子供たちが、やはりすくすく育って行って、そして、例えばいわゆる文化芸術っていうこと言えば、子供たちにどうそ

れを伝えていって、後世に残していってもらおうかということ、これが文化芸術を継承する一番大事な部分です。そういう意味で言えば、確かにこの公民館というのは、大事な機能です。生涯学習の拠点でもあるわけです。けども、その辺を考えながら新たな形で進めていかなければ、時代とともに変わっていかないと駄目だと私は思っておりますので、そういう意味ではこれからもいろいろと議論をしてもらえたらなというふうに思っています。以上でございます。

（司会）皆様、本日はお忙しいところ、長時間にわたりご参加いただきありがとうございました。

これにて公共施設マネジメントシンポジウムを終了いたします。

本日は誠にありがとうございました。